

第2期

えひめこどもの城 魅力向上戦略



令和6年2月

愛媛県

第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会



目次

第1章：基本的事項	2
1 目的	
2 目標とする期間	
3 成果目標	
4 戦略の構成	
第2章：第1期戦略の取組状況について	
1 大型遊具（コンテンツ）の導入	3
（1）とべもりジップライン	
（2）コシロ・アドベンチャー（複層型木製アスレチック遊具）	
（3）コシロ・カート（自動運転電動カート：予定）	
2 「とべもり+（プラス）」～近隣施設とともに集客力を向上～	4
第3章：えひめこどもの城の概況	
1 施設の概況	5
（1）開園の背景	
（2）施設の位置づけ	
（3）施設の機能	
（4）主な施設	
（5）施設の設置場所	
2 えひめこどもの城を取り巻く状況	7
（1）入園者数の推移	
（2）愛媛県の人口等	
（3）周辺地域の特性	
（4）児童厚生施設（県立大型児童館・児童遊園）の役割の多様化	
（5）近年の社会的影響	
（6）豊かな緑の空間と抱える課題	
（7）えひめこどもの城へのアクセス	
（8）施設、遊具の老朽化	
3 実態調査	18
（1）えひめこどもの城利用者に対する調査	
（2）WEBサイト等での評価	
◎愛媛大学社会共創学部学生による調査と戦略立案	
第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）	
1 えひめこどもの城の将来像	26
2 将来像の実現に向けた基本的な考え方（行動目標）	27
3 将来像の実現に向けたハード整備計画	28
（1）方針	
（2）整備項目	
4 ターゲットの設定及び想定する周遊コース	34
（1）ターゲットの設定	
（2）周遊コース（案）	
（3）中高生をはじめとする新しい来園者層の利用促進	
5 具体的な行動計画（アクションプラン）	37
（1）魅力づくりのための4つの視点	
（2）取組みの展開例	
6 戦略の推進イメージ	42

付 録

- 第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会設置要綱
- 第2期えひめこどもの城魅力向上検討経過
- 第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会委員名簿

第1章：基本的事項

1 目的

2019(平成31)年3月にまとめられた「えひめこどもの城魅力向上戦略」(第1期戦略)は、開園20周年を機に、えひめこどもの城がこれから先も、子どもや家族連れをはじめ、多くの幅広い年齢層の皆さんに親しまれる施設であり続けるために、多様なニーズへの対応や多彩な遊び・体験の創出など、子どもの健全育成のシンボルとして求められる具体的な取組みについて、2023年度までを計画期間として提案されました。

本戦略は、その目的を引き継ぐとともに、この5年間の社会的環境や物理的環境の変化等に対応するため、状況を再整理し、改めてえひめこどもの城に求められる具体的な取組みについて提案するものです。

2 目標とする期間

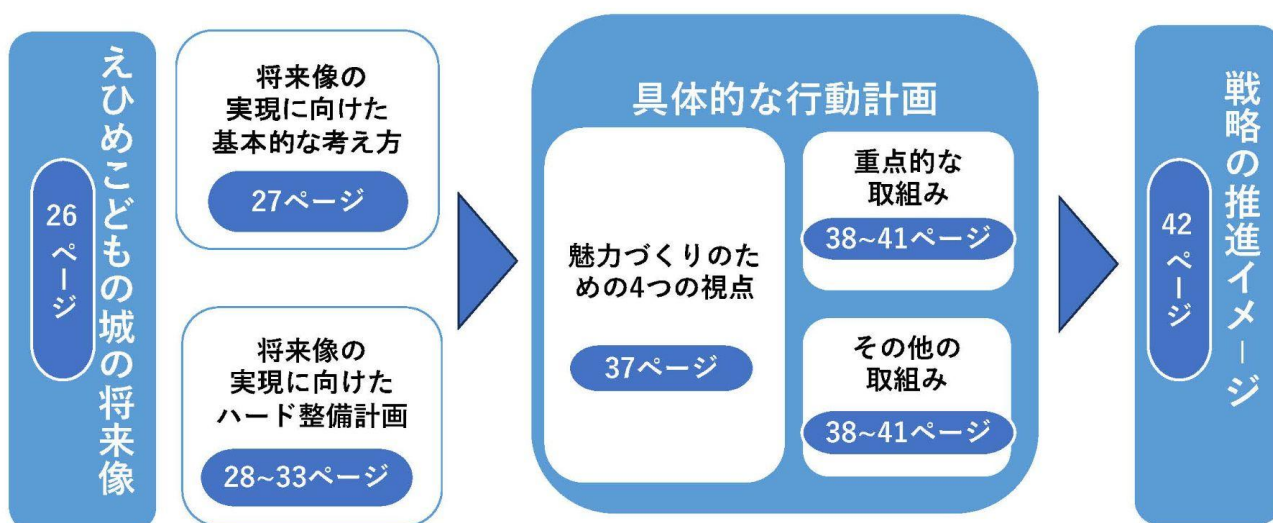
本戦略は、第1期戦略で定めたえひめこどもの城の将来像の実現に向け、今後5年間(2024年度～2028年度)の行動計画を示します。

3 成果目標

来園者数 2028年度に46万人(過去最多)



4 戦略の構成



第2章：第1期戦略の取組状況について

1 大型遊具（コンテンツ）の導入

(1) とべもりジップライン

えひめこどもの城と県立とべ動物園を繋ぎ、移動そのものがアトラクションになっているジップライン。総延長730mの四国最大級のスケールで、2つの施設を往復利用できることや、2本のワイヤーで2人同時に並走可能であること、池の上空を滑走することなどが特徴となっている。

えひめこどもの城のイルミネーションイベントと連動して夜間も運行するなど、利用者増加の仕掛けも実施しているほか、テレビやインターネット等を使った広報により、県内外からの利用促進を図っている。

ファミリー層だけでなく、中高生や若年層などの利用により、来園者の年齢層の引上げに貢献している。また、県外からの利用者も多く、集客の面的な広がりにも効果が認められる。

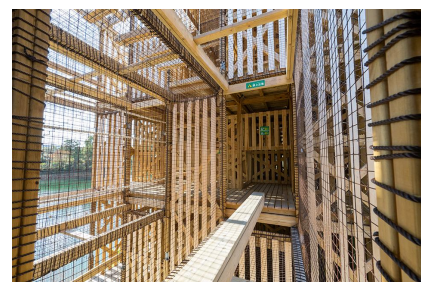
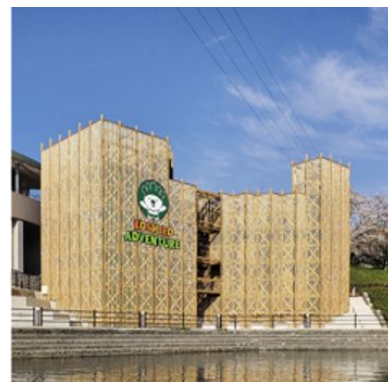


- ・利用開始 2021年3月14日
- ・利用者数 2021年度 6,486人
2022年度 10,138人

(2) コシロ・アドベンチャー（複層型木製アスレチック遊具）

とべもりジップライン直下の、池に臨む親水護岸上に設置。県産材を活用した5層2棟の大型木製アスレチックで、身体をいっぱい使って38種類のアスレチックアイテムをクリアしながらゴールを目指す。

ファミリー層をはじめとする幅広い層から人気を博しているほか、県外からの来園者にも利用されており、来園者数の増加に寄与している。



- ・利用開始 2023年3月26日

(3) コシロ・カート（自動運転電動カート：予定）

とべもりジップライン利用者の利便性向上及び新たな園内周遊手段として整備予定。自動運転で子どもも安全に楽しめるとともに、電動で環境にやさしい移動手段となる。

- ・利用開始 2024年3月(予定)



(イメージ)

第2章：第1期戦略の取組状況について

2 「とべもり+（プラス）」～近隣施設とともに集客力を向上～

2020年度に、ジップラインで繋がるえひめこどもの城と県立とべ動物園に愛媛県総合運動公園を加えた3施設の所管課と指定管理者が、それぞれの強みを活かしながら、連携した魅力向上の推進と施設間の回遊性の向上に取り組み、エリア全体の交流人口を拡大させることで各施設の利用者数の増大を図り、もって地域活性化に寄与することを目的とした協議会を設立。3施設の呼称を「とべワンダーフォレスト」、略称「とべもり」、共通活動テーマを「愛顔つながるアドベンチャーゾーン」とし、連携した広報等を展開した。

2023年度には、伊予市と砥部町に広大な敷地を有するえひめ森林公園を加え、「とべもり+（プラス）」として4施設での連携を開始し、それぞれの強みを活かしながらプロモーションやイベントを実施している。



【主な連携事業（2020年度～2023年度）】

(1) プロモーション

- ① Webサイト・SNS (2020年度～)
- ② アプリ「とべもり+ナビ」(2020年度～)
- ③ テレビCM (2021年度～)
- ④ 周遊モデルコースの造成 (2021年度)
- ⑤ とべもり+SDGs学習プログラム (2022年度)

(2) イベント

- ① 松丸くんからの謎解き挑戦状2021 (2020年度)
- ② とべもりデジタルスタンプラリー (2022年度)
- ③ とべもり+キックオフイベント (2023年度)
- ④ とべもり+謎解き周遊イベント (2023年度)



第3章：えひめこどもの城の概況

1 施設の概況

(1) 開園の背景

子どもたちが、豊かな自然環境の中で、仲間同士や家族等のふれあいを通じて、遊び体験をはじめ、自然体験、社会・文化的体験等さまざまな体験活動を行うことにより、創造性や自主性、社会性、豊かな感性等を育むことができる、本県の子どもたちの遊びと創造のシンボルであるとともに、県内の児童館等児童関連施設の中核的センター機能や指導者の養成等を行う研究・養成機能を持つ総合的な拠点施設として、1998(平成10)年に開園。

(2) 施設の位置づけ

児童福祉法に基づく児童厚生施設

(児童遊園、児童館等児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とする施設)

(3) 施設の機能

- ①大型児童館をはじめ各ゾーンの体験施設等において、子どもが遊びを通じて、仲間や家族等とふれあいながら、自然、創造、運動、社会・文化体験等様々な体験活動ができ、子どもたちに興味と関心を喚起させる体験機能
- ②県内の児童館、児童センターなどの情報把握や相互利用を図るほか、その運営等を指導するなど、県内児童館等の連絡調整及び児童館活動の充実を図るための指導の役割を果たすセンター機能
- ③児童健全育成活動において活用できる各種遊びの内容や指導技術に関して、調査・開発等を行い普及させるとともに、児童厚生員(児童の遊びを指導する者)等児童館職員をはじめ児童健全育成活動の指導者やボランティアの育成及び資質向上を図る研究・養成機能



第3章：えひめこどもの城の概況

(4) 主な施設

①体験施設 31.2ha

(ア) こどものまちゾーン(3.9ha)

大型児童館〔鉄筋コンクリート造3階建て延床面積：4,072.22㎡〕

【1階】エントランスホール、こどもタワー 等

【2階】多目的ホール、図書コーナー、相談コーナー、幼児コーナー、こどもエレベーター、フリースペース、音楽室、管理事務室 等

【3階】ワークショップ、クッキングルーム、研修室、ボランティアルーム、おもちゃの歴史ギャラリー 等

【屋上】探索園(錯視錯覚遊具)[光の塔、空の塔、こだまの塔、風の塔、光のトンネル、こだまのトンネル、迷路の園 等]

(イ) イベント広場ゾーン(2.0ha)

芝生広場、くわがたのステージ、じゃぶじゃぶ水路、みずべのレストラン、ボートのりば、親水護岸、コシロ・アドベンチャー 等

(ウ) 創造の丘ゾーン(2.8ha)

創作工房、ハーブ園、花の丘、さくら橋、さくらの小径 等

(エ) 冒険の丘ゾーン(8.7ha)

冒険ステーション、四輪バギー、てっぺんとりで、ボブスレー、てんとう虫のモノレール、とべもりジップライン、自動運転電動カート(予定) 等

(オ) ふれあいの森ゾーン(13.8ha)

森のとりで、森の広場、せせらぎ、ふれあいの池、野鳥の森、果実の森 等

②その他 3.4ha

(ア) 松山側駐車場〔乗用車395台(大型バス10台を含む)〕(1.1ha)

(イ) 砥部側駐車場〔乗用車105台〕(0.2ha)

(ウ) その他(2.1ha)

(5) 施設の設置場所

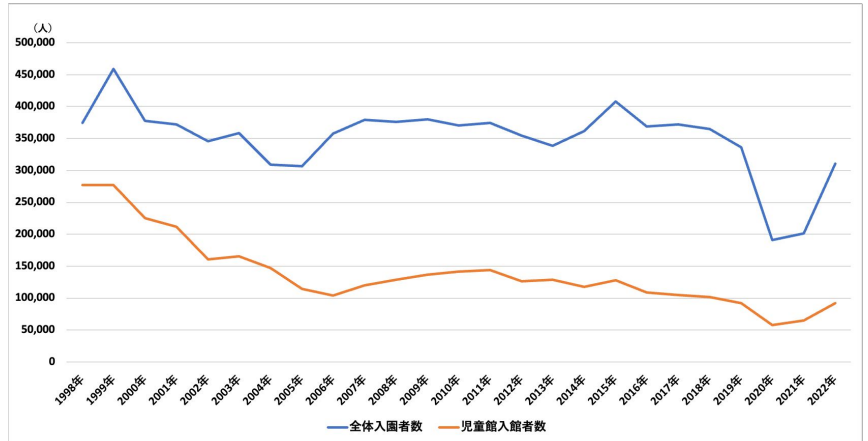
愛媛県松山市西野町及び砥部町宮内にまたがる区域(県立とべ動物園、愛媛県総合運動公園と隣接、えひめ森林公園近傍)



第3章：えひめこどもの城の概況

2 えひめこどもの城を取り巻く状況 (1) 入園者数の推移

年度	全体入園者数	児童館入館者数	児童館比率
1998年	374,268	277,402	74%
1999年	458,960	277,445	60%
2000年	377,340	225,718	60%
2001年	371,760	212,102	57%
2002年	345,710	160,859	47%
2003年	358,750	165,448	46%
2004年	308,710	147,531	48%
2005年	306,540	114,182	37%
2006年	357,730	104,108	29%
2007年	379,030	120,239	32%
2008年	376,110	128,949	34%
2009年	380,294	136,851	36%
2010年	370,220	141,613	38%
2011年	374,700	143,606	38%
2012年	354,630	126,330	36%
2013年	338,250	129,006	38%
2014年	361,670	117,804	33%
2015年	408,090	128,393	31%
2016年	368,590	108,915	30%
2017年	372,296	104,701	28%
2018年	365,250	101,652	28%
2019年	336,530	92,052	27%
2020年	191,380	57,591	30%
2021年	201,290	65,280	32%
2022年	310,330	91,890	30%

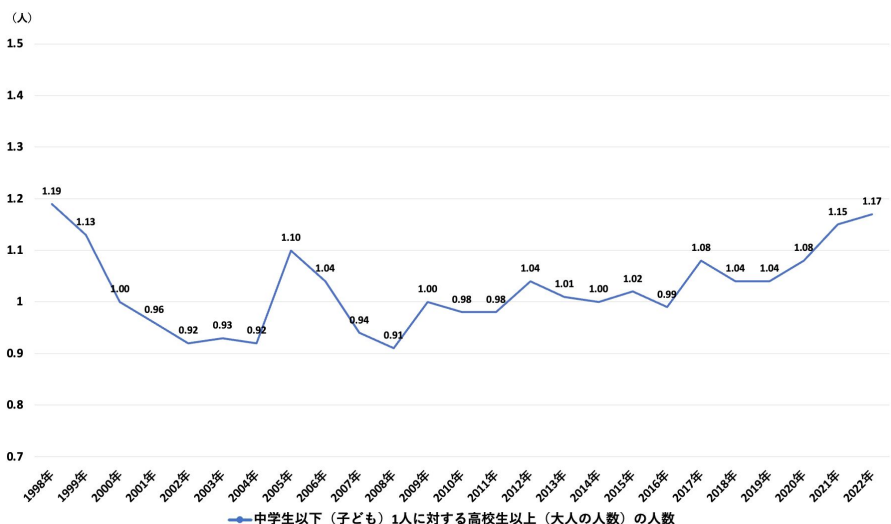


全体入園者数は、2007年度以降、おおむね35万人～40万人で推移してきたが、2019年度末頃から、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きく減少した。(2020年度、2021年度には休園期間がある。)

2007年度以降で唯一入園者数が40万人を超えた2015年度は、週末に天気の良い日が多かったことが要因となっている。一方、天候に左右されない児童館の利用者比率は概ね30%前後で推移し、大きな変化はない。

上記から、全体の入園者数を増やすためには、利用状況が安定している児童館よりも、**屋外施設のアクティビティ改善に注力するほうが利用促進の効果が高い**と考えられる。

年度	中学生以下	高校生以上	中学生以下(子ども)1人に対する高校生以上(大人の人数)の人数
1998年	171,064	203,204	1.19
1999年	215,040	243,920	1.13
2000年	188,393	188,947	1.00
2001年	190,000	181,760	0.96
2002年	180,370	165,340	0.92
2003年	185,770	172,980	0.93
2004年	161,060	147,650	0.92
2005年	153,410	168,200	1.10
2006年	175,710	182,020	1.04
2007年	195,310	183,720	0.94
2008年	196,780	179,330	0.91
2009年	189,851	190,443	1.00
2010年	187,300	182,920	0.98
2011年	189,040	185,660	0.98
2012年	173,990	180,640	1.04
2013年	168,340	169,910	1.01
2014年	175,720	175,950	1.00
2015年	202,100	205,990	1.02
2016年	184,840	183,750	0.99
2017年	179,240	193,056	1.08
2018年	178,730	186,520	1.04
2019年	165,030	171,500	1.04
2020年	92,030	99,350	1.08
2021年	93,420	107,870	1.15
2022年	142,970	167,360	1.17



子ども(中学生以下)1人に対する大人(高校生以上)の入園者数は、近年増加傾向にあり、とべもりジップライン整備後の2021年以降顕著に上昇している。

少子化の人口予測も踏まえると、今後の大型遊具の整備等に当たっては、**子どもだけでなく、高校生や大学生を含む大人も楽しめる内容としたり、工夫を加えたりといった配慮が必要**と考えられる。

第3章：えひめこどもの城の概況

(2) 愛媛県の人口等

■愛媛県の人口

※2020(令和2)年10月1日

愛媛県の人口は2023年現在129万人。今後減少が続き2040年には約106万人程度となる見込み。うち15歳未満の人口は2020年時点の15.4万人から2040年には約9.6万人となると予測されている。

	男女計(千人)		
	15歳未満	15~64歳	65歳以上
愛媛県	154	737	443
割合	11.6%	55.2%	33.2%

(出典)総務省

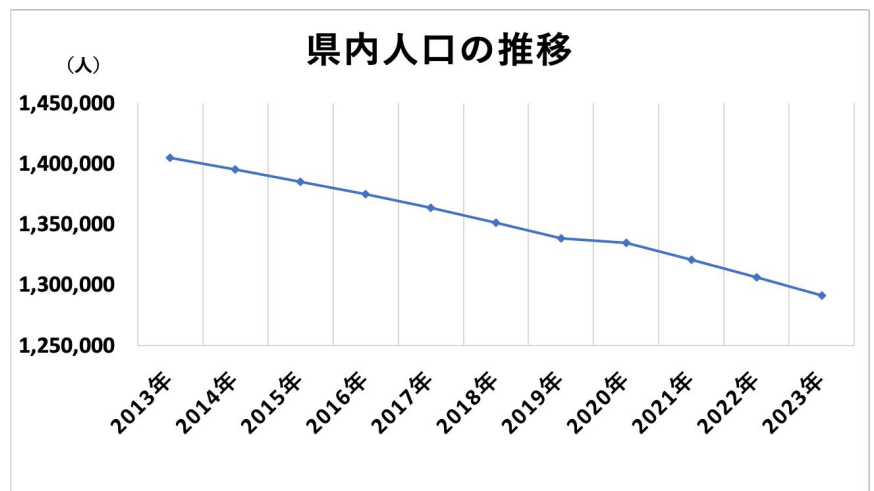
■愛媛県人口推移

年	人口
2013年	1,405,051
2014年	1,395,609
2015年	1,385,262
2016年	1,374,881
2017年	1,363,905
2018年	1,351,510
2019年	1,338,810
2020年	1,334,841
2021年	1,320,782
2022年	1,306,165
2023年	1,291,198

※国勢調査

※国勢調査

(出典)愛媛県企画振興部統計課



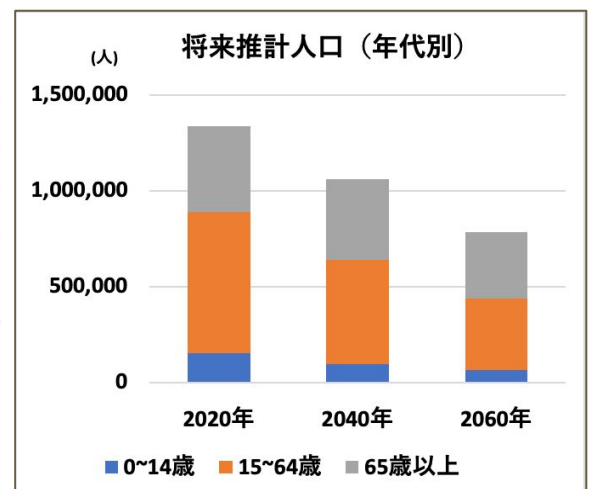
2013年から2023年にかけて、社会減・自然減を併せて年平均1万1,000人以上の人口が減少している。

■将来推計人口(年代別)

	2020年	2040年	2060年	増減率
0~14歳	154,420	96,143	64,069	△58.5%
15~64歳	737,231	543,284	373,840	△49.3%
65歳以上	443,190	419,813	345,639	△22.0%
(うち75歳以上)	(230,706)	(251,775)	(233,924)	(1.4%)

(出典)愛媛県企画振興部総合政策課

※2020→2060



第3章：えひめこどもの城の概況

■四国の人口※国勢調査時と同じ10月1日現在で統一

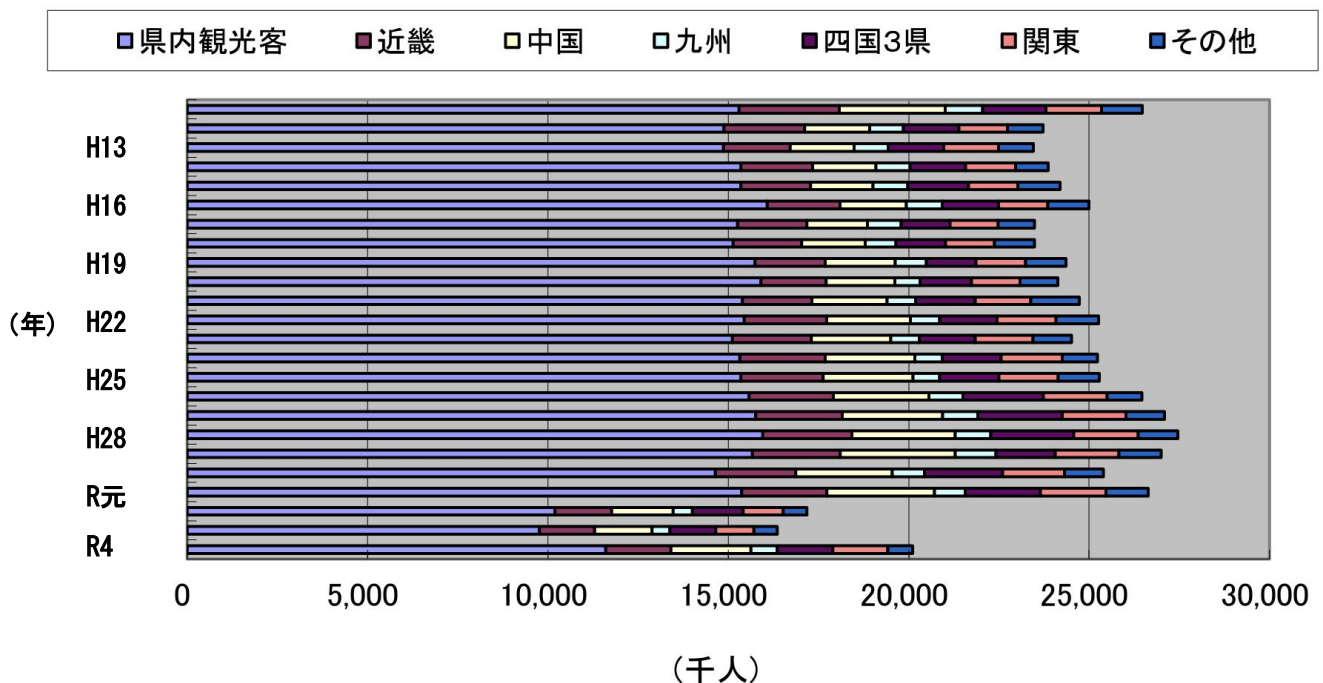
(率以外の単位は千人)

県名	国勢調査			令和3年(2021)推計人口	
	平成27年(2015)	令和2年(2020)	人口増減率	総人口	人口増減率(対前年) ※人口1000につき
愛媛県	1,385	1,335	-3.64%	1,321	-1.05%
香川県	976	950	-2.67%	942	-0.86%
高知県	728	692	-5.05%	684	-1.08%
徳島県	756	720	-4.79%	712	-1.05%

(出展) 総務省

四国の中では愛媛県の人口が一番多い状況だが、四国4県の人口が減少しており、愛媛県も人口減少傾向にある。また、隣接する3県も今後人口減少が予想される。愛媛県と隣接県において人口減少が予測される中で、集客力を高めるためには、県内からのリピート来訪と県外からの来県の促進が必要。

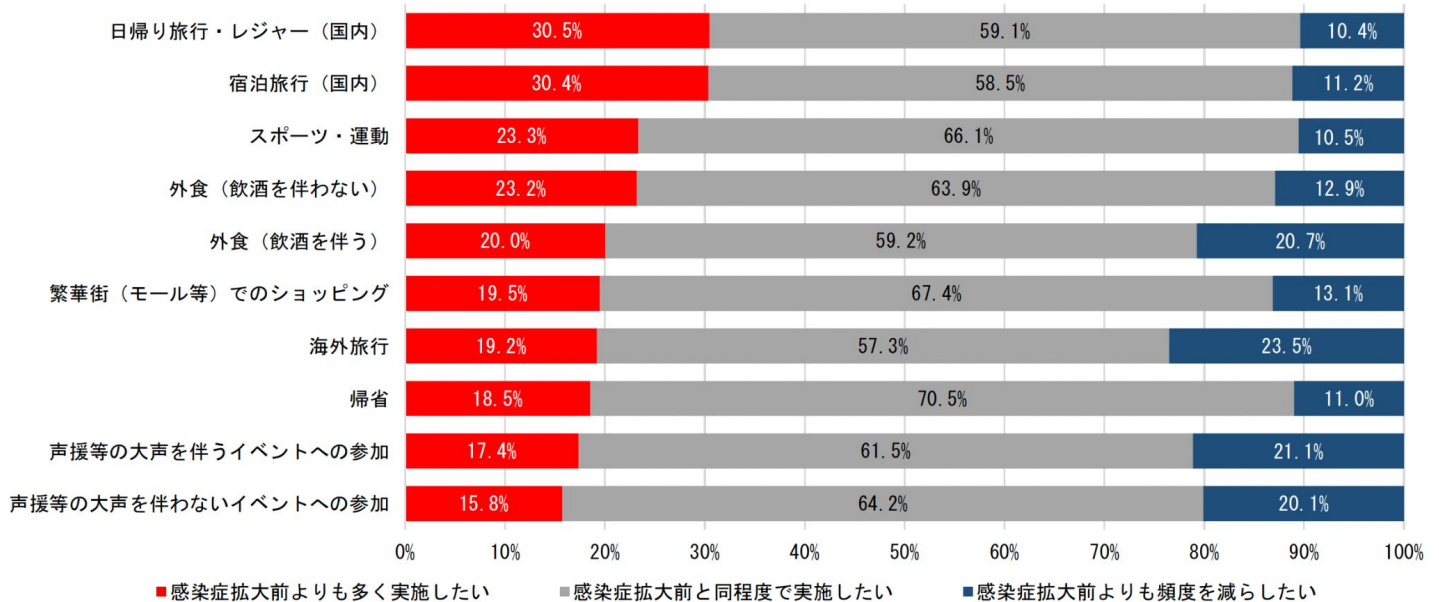
■愛媛県の観光客数



(出典) 愛媛県観光スポーツ文化国際課

第3章：えひめこどもの城の概況

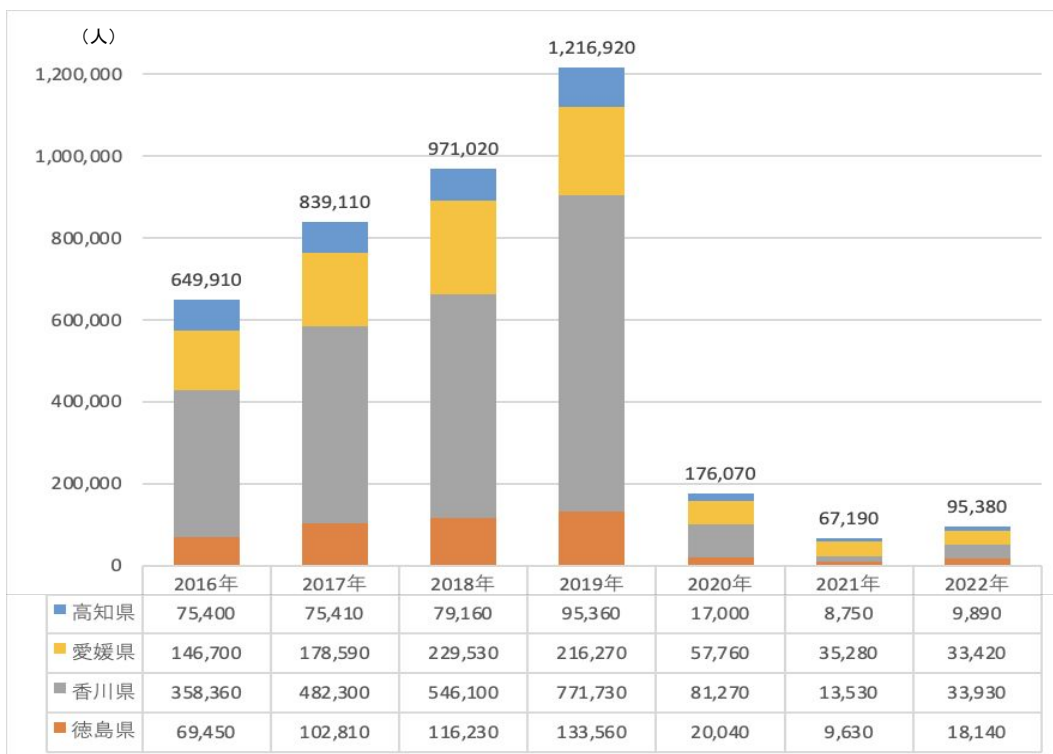
■新型コロナウイルス感染症の5類移行後における活動希望



（出典）内閣府「第6回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」

2012年から2019年までは25万人以上の観光客数だったが、コロナ禍となった2020年以降大きく減少。2022年は回復基調にあるとともに、新型コロナの5類移行後の活動希望として、日帰り旅行・レジャーや宿泊旅行を感染症拡大前よりも多く実施したいとの意見が30%を超えている。今後の動向に注意し、近隣県だけでなく、近畿や関東といった愛媛県への観光需要がある地域をターゲットとしたPRが重要と考えられる。

■四国地方外国人延べ宿泊者数



コロナ前までは外国人延べ宿泊者数は増加傾向にあったが、コロナ禍により大きく減少した。2022年からは回復基調となっており、今後さらに回復が見込まれるインバウンドについては、利用拡大の余地がある。

（出典）国土交通省「宿泊旅行統計調査」

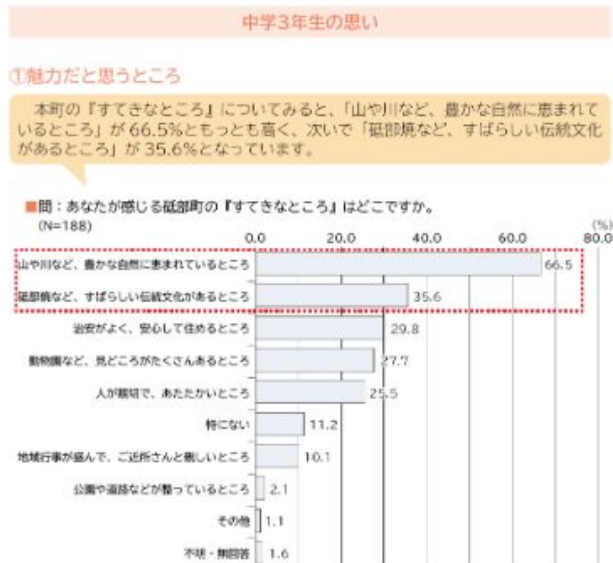
第3章：えひめこどもの城の概況

(3) 周辺地域の特性

えひめこどもの城の周辺には、西日本最大規模を誇るとべ動物園や、2万人を収容するスタジアムを含む愛媛県総合運動公園など、レジャー・スポーツ施設が隣接している。また、えひめこどもの城の敷地の西半分が所在する伊予郡砥部町は、砥部焼(磁器)の町として有名で、地元では、伝統技術や文化の継承のための取組みが積極的に行われている。えひめこどもの城でも開園当初から継続している砥部焼を素材とした創作活動プログラムは人気が高い。

なお、砥部町は県のほぼ中央に位置し、高知県までの主要道路である国道33号や高速道路のインターチェンジまでのアクセスが容易(いずれも10分程度でアクセス可能)であることから、松山市のベッドタウンとしての一面もある。

一方、えひめこどもの城の東側の松山市は、のどかな田園風景が広がり、お遍路文化を色濃く残す地域でもある。えひめこどもの城は、県都にあって、子どもたちが豊かな自然に囲まれた中で活動し、さまざまな文化にも触れられる、絶好のロケーションにあるといえる。



(出典)第2次砥部町総合計画

■調査概要

項目	内容
調査対象者	「中学3年生」全 201 人の内、欠席者などを除く 188 人 「満 16 歳以上の住民」2,000 人を対象に無作為抽出
調査期間	平成 28 年 7 月 1 日 (金) ~ 平成 28 年 7 月 22 日 (金)
調査方法	「中学 3 年生」：学校を通じての配付・回収 「満 16 歳以上の住民」：郵送による配布・回収
回収数	「中学 3 年生」188 件中 188 件 100% 「満 16 歳以上の住民」2,000 件中 864 件 43.2%



観光にも力を入れている砥部町と、えひめこどもの城の連携が進み、どちらも訪れてくれる人が増えたら良いですね。今のところ、砥部焼を買い求める方とえひめこどもの城の来園者の客層に違いがあるところは課題ですが、今後、文化やアートなどを軸に連携を進めていきたいと思っています。

森本委員(行政/砥部町商工観光課 課長)のコメント

第3章：えひめこどもの城の概況

(4) 児童厚生施設（県立大型児童館・児童遊園）の役割の多様化

少子化の進行に加え、スマホやIT機器、コンピュータゲーム、SNSの普及等に伴う、子どもの遊びの室内化や孤独化、バーチャル化が進む中、子どもや家族連れの興味・関心を引き付けるトピックスがなければ、中長期的に見ても、利用者の減少が見込まれる。

このような中、他県の大型児童館では、幼児や小学生を対象としたコンテンツ（遊具で遊ぶ、図画工作を楽しむ等）だけでなく、より上の年齢層（中高生）を対象とした学び（科学学習、自然体験、アート作品の創作、文化伝統の継承等）の要素を取り入れ、SNS等への投稿の価値を高めるビジュアル要素に特化した観光資源としての取組みを強化するなど、施設により工夫している。

なお、2018（平成30）年10月に、地域の子ども・子育て支援に資する児童福祉施設としての児童館の更なる機能拡充を目指して「児童館ガイドライン」が改正され、大型児童館の機能・役割についても新たに明記されている。

児童館ガイドラインの改正のポイント

※従前の児童館ガイドラインの6項目25節・約5,500字から、9章構成、39項目・約14,700字に拡充するとともに、児童館職員が具体的に参考になるような内容及び平易な文章表現にした。

- | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">児童福祉法改正及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、子どもの意見の尊重、子どもの最善の利益の優先等について示した。 | <ul style="list-style-type: none">児童館の職員に対し、配慮を必要とする子どもへの対応として、いじめや保護者の不適切な養育が疑われる場合等への適切な対応を求めた。 |
| <ul style="list-style-type: none">児童福祉施設としての役割に基づいて、児童館の施設特性を新たに示し、①拠点性、②多機能性、③地域性の3点に整理した。 | <ul style="list-style-type: none">子育て支援の実施について、乳幼児支援や中・高校生世代と乳幼児の触れ合い体験の取組の実施等内容を追加した。 |
| <ul style="list-style-type: none">子どもの理解を深めるため、発達段階に応じた留意点を示した。 | <ul style="list-style-type: none">大型児童館の機能・役割について新たに示した。 |

（出典）厚生労働省「児童館ガイドライン」の改正について

大型児童館の機能・役割【平成30年10月改正により新設】

1 基本機能

大型児童館は、固有の施設特性を有し、子どもの健全育成の象徴的な拠点施設である。他の機能を有する施設との併設等の場合にも、児童厚生施設である児童館の機能が十分に発揮されることが求められる。

2 県内児童館の連絡調整・支援

県内児童館の情報の把握や相互利用、運営等の指導、館長や児童厚生員等の研修、児童活動の啓発、地域組織活動等の連絡調整等、大型児童館相互の連携や積極的な情報交換を行うこと。

3 広域的・専門的健全育成活動の展開

県内児童館等で活用できる各種遊びのプログラムを開発、普及を図ること。児童館のない地域等に出向き、遊びの提供等に努めること。優良な児童福祉文化財の保有や活用、児童福祉文化を高める舞台の鑑賞体験を行うこと。

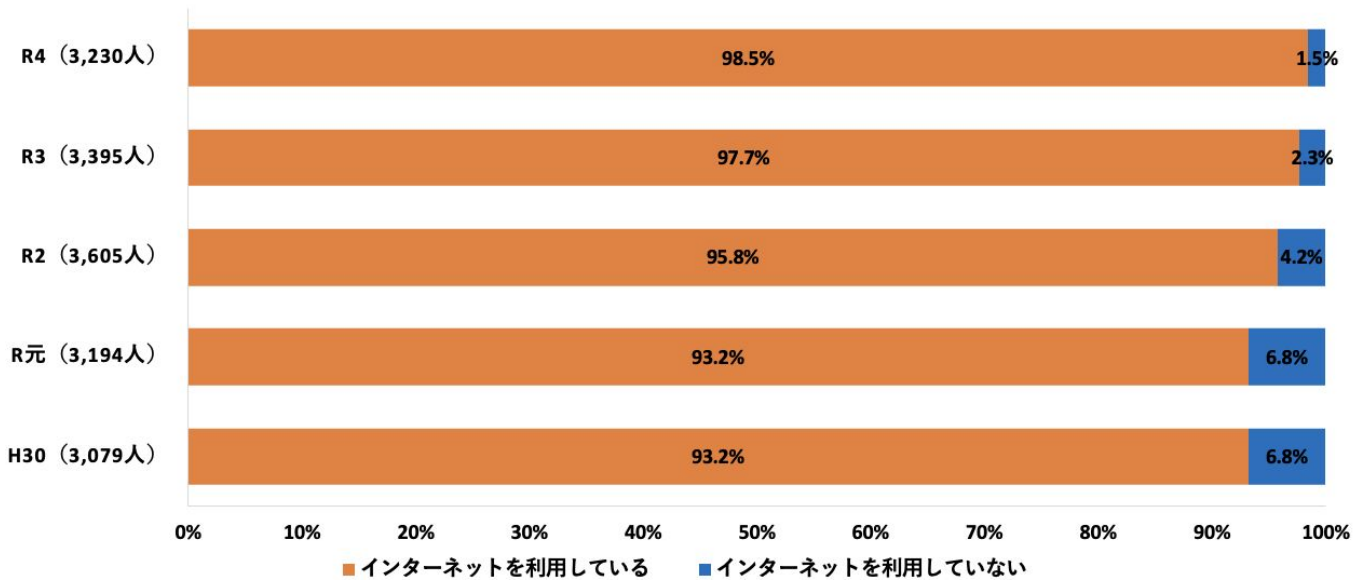


大型児童館の役割を果たしながら、全国的にも数少ない大型児童館としての特長を伸ばしていく取り組みが来園者増には必要。また児童館の役割からも現在の来園者の年齢層で少ない、中高生の来園を伸ばす取り組みが求められると考えます。

友川委員（学識経験者／松山東雲女子大学 准教授）のコメント

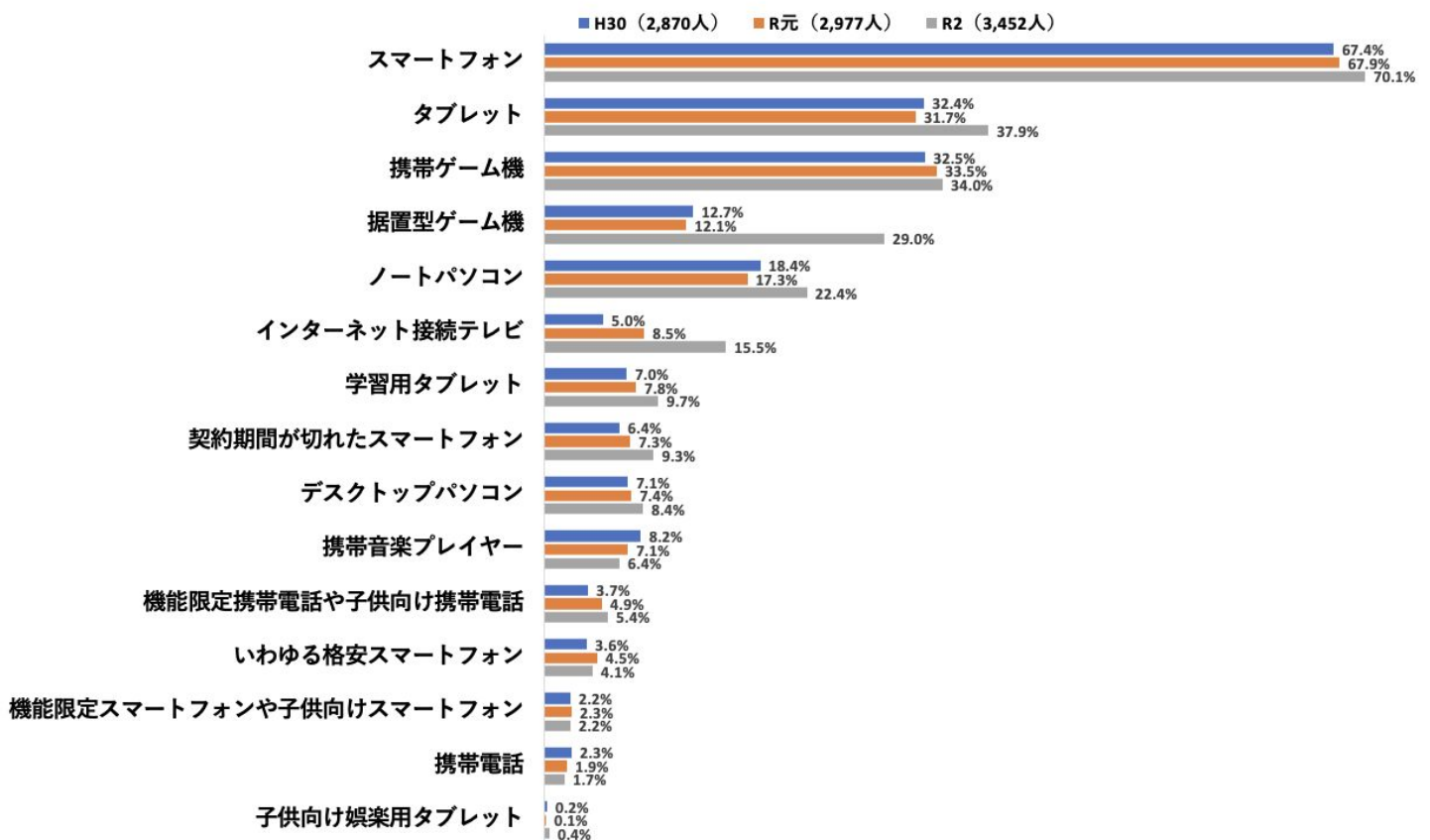
第3章：えひめこどもの城の概況

■ 青少年のインターネットの利用状況



(出典) 内閣府「令和4年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

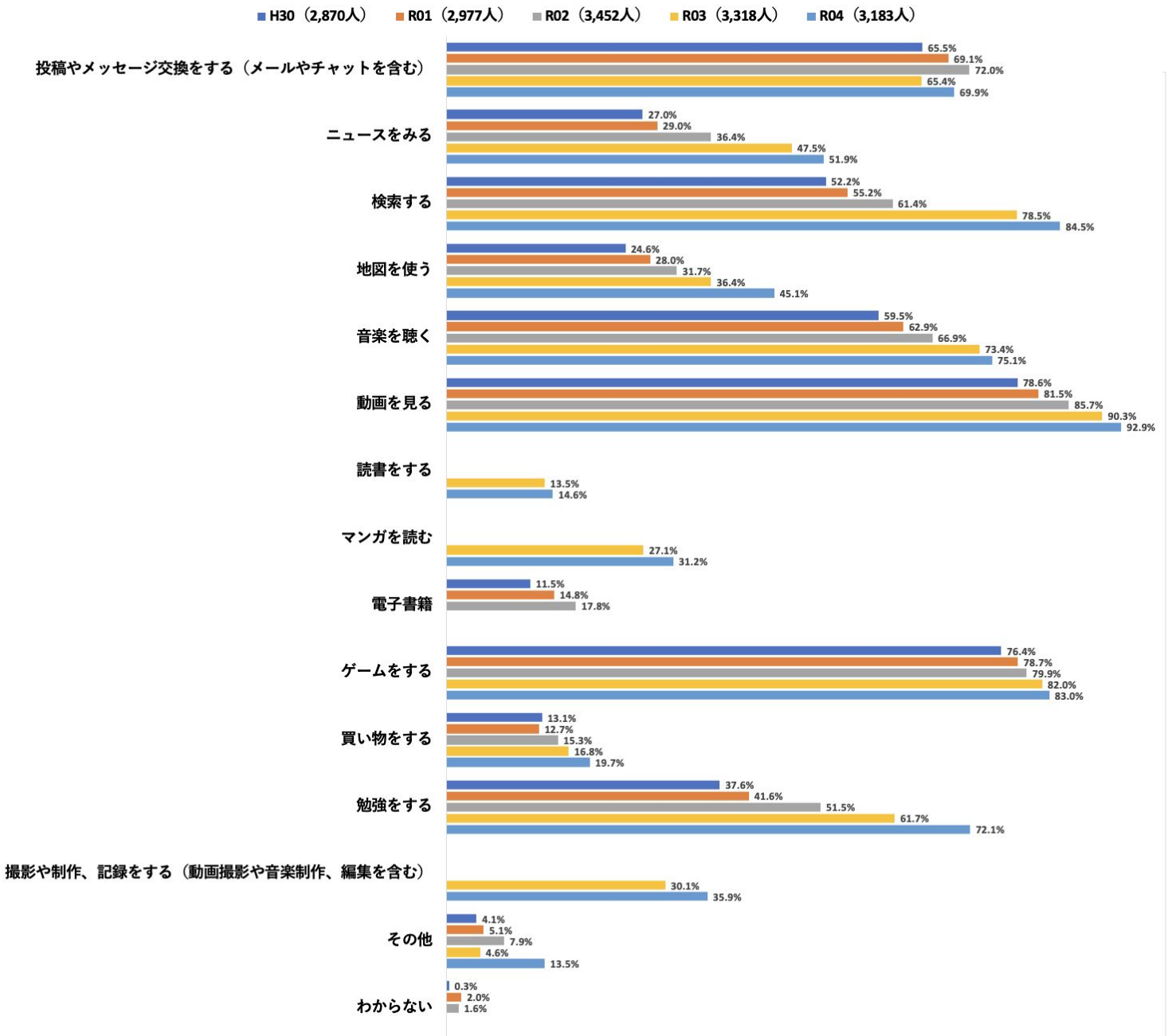
■ 青少年のインターネットの利用率（機器別）



(出典) 内閣府「令和4年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

第3章：えひめこどもの城の概況

■インターネットの利用内容



(出典)内閣府「令和4年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

第3章：えひめこどもの城の概況

(6) 豊かな緑の空間と抱える課題

えひめこどもの城は、34.6haの起伏のある丘陵地に豊かな森と緑の空間及び環境学習施設「えひめエコ・ハウス」を有している。また、敷地内の緑は、愛媛県総合運動公園や砥部町の自然景観と一体となって、野鳥や昆虫の生息地となっている。

一方で、施設整備時に造成した敷地には、植栽したものや自生したものなど、多数の樹木やツタが成長し、枝葉が重なり合った場所も多く、敷地全体が暗い印象になるとともに、園内の道路や遊歩道を見通すことが難しく、また、イノシシ等の有害鳥獣が入り込む状況となっている。



(7) えひめこどもの城へのアクセス

児童館(児童厚生施設)は、生活環境や状況に関わりなく、子どもが自由に来館して過ごすことができる児童福祉施設であるにもかかわらず、えひめこどもの城は、車や公共交通機関(バス)での来館を前提としており、ほとんどが、大人(保護者)の意思によって、来館するかしないかが決定する。

また、駐車場や停留所から園内の各施設までは高低差が大きく、屋外遊具の利用を含め、バリアフリー性や利便性の向上が課題となっている。

- 子どもが安全に安心して過ごせる居場所としての環境整備が求められている。
 - ↳ 送迎など多様なニーズに対応できるサポート体制の強化
 - ↳ 中高生世代が利用できる環境整備(利用時間の変更、公共交通機関との連携等)
- 児童館のない地域等に出向き、児童館の機能役割の理解促進を図るとともに、遊びを提供し、県内全域の児童健全育成を推進する。「動くこどもの城事業」→長期休暇等を利用した来園者(家族連れや団体)の拡大や、学校の課外活動等と連携した利用プログラムの充実につなげる。
- 屋外遊具をメインとした広大な敷地を有する施設であるため、施設内のバリアフリーやサポート体制が分かりにくく、来園者を誘引しにくい。



子どもたちが小さい時はよく訪れていましたが、小学生・中学生になり部活動や勉強が忙しくなると、えひめこどもの城を訪れる機会が減ってしまいました。アクセスの面から大人(保護者)の意思決定によって来園するかが決まってくると感じます。大人(保護者)がつれて行きたいと思う遊具やイベントを用意することも必要ではないでしょうか。またクラブ活動など、学校単位での来園を促すことも団体の来園促進につながると思います。

堀田委員(利用者(一般/NPO法人ワークライフ・コラボ 代表理事)のコメント

第3章：えひめこどもの城の概況

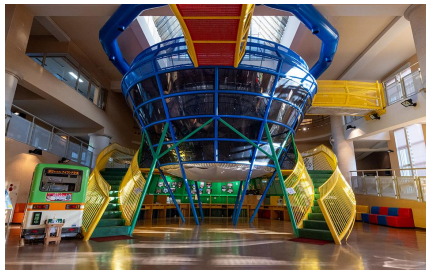
(8) 施設、遊具の老朽化

開園当初に設置された設備や遊具等は随時補修を実施してきたが、補修しても安全性が担保できないものは、運行廃止や立入制限等の対応をとってきた。

老朽化が進む中で安心して子どもたちを遊ばせるという児童館の役割を果たすためには、必要な補修や改修を実施するとともに、状況に応じて運行休止や廃止、用途変更の検討を進める必要がある。

・あいあい児童館

(内部)



(外遊具)



・冒険ステーション



・くわがたのステージ



・じゃぶじゃぶ水路



■ 既存遊具・設備整備(修繕等)方針

- ・児童館・児童遊園の**安全利用に必要な修繕**を実施する。
- ・児童厚生施設として**安心して安価で遊べる遊具**を整備する。
- ・メンテナンス費用も踏まえ、**必要性・採算性の高いものを中心に全体の周遊性との連動にも配慮のうえ再構成**する。

区分	【継続】		【休止・廃止等】
判断基準	必要性が高い	採算性が高い	採算性が低い 安全確保が困難
整備の方向性	施設機能の維持及び安全の確保を図る	安全の確保に加え、収益の維持・向上を図る	運行休止・廃止、立入制限、用途変更等



ふわふわドームや夏場に利用できるじゃぶじゃぶ水路は孫たちがとても気に入っています。新しくできた「コシロ・アドベンチャー」も楽しんでいました。老朽化していく遊具もあると思いますが「えひめこどもの城」のシンボルとしてどの世代の思い出にもなる乗り物がひとつあるといいですね。

また現在使っていない場所を有効活用することで収益化を進められると感じます。
山口委員(利用者(三世代利用)／株式会社NANATO 取締役副社長)のコメント

第3章：えひめこどもの城の概況

3 実態調査

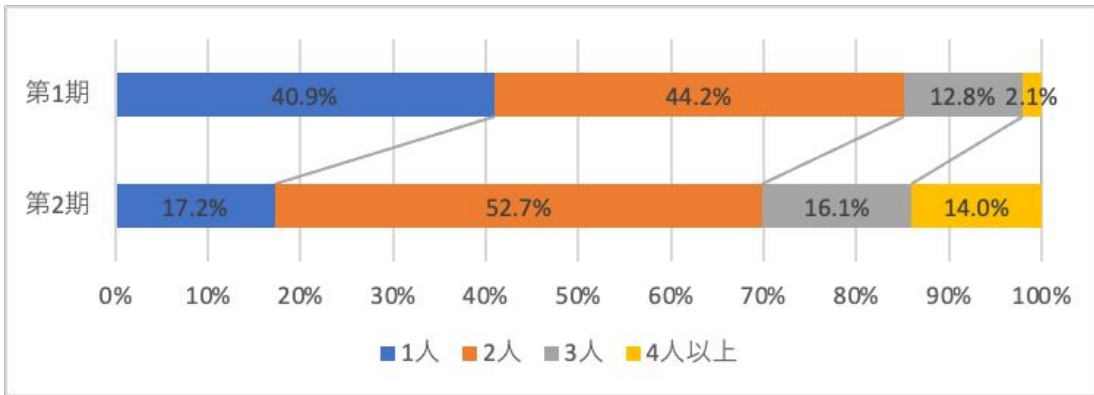
えひめこどもの城の優位性や特長を把握し、集客力の向上に必要な改善事項を明らかにするため、来園した方へアンケート調査を行い、第1期戦略の調査結果(2018年6月実施)と比較した。また、より広くえひめこどもの城に関するイメージを把握するため、WEB上での評価等を調査した。

(1) えひめこどもの城利用者に対する調査

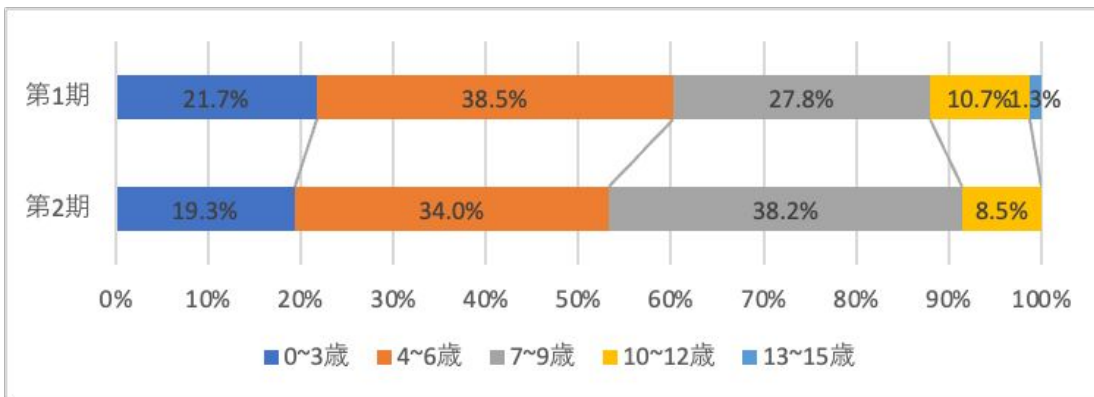
- ・実施期間 2023年7月1日～7月31日
- ・回答数 106件



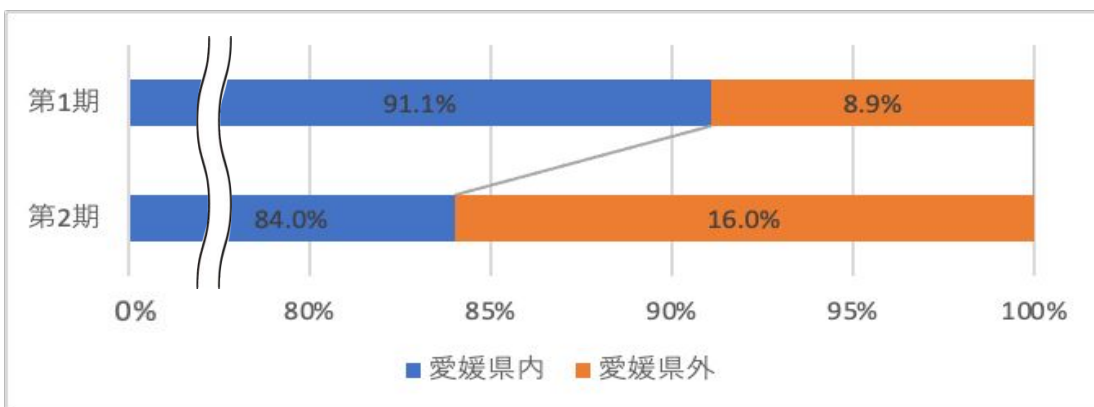
■来園した家族の子ども数



■来園した家族の子どもの年齢層

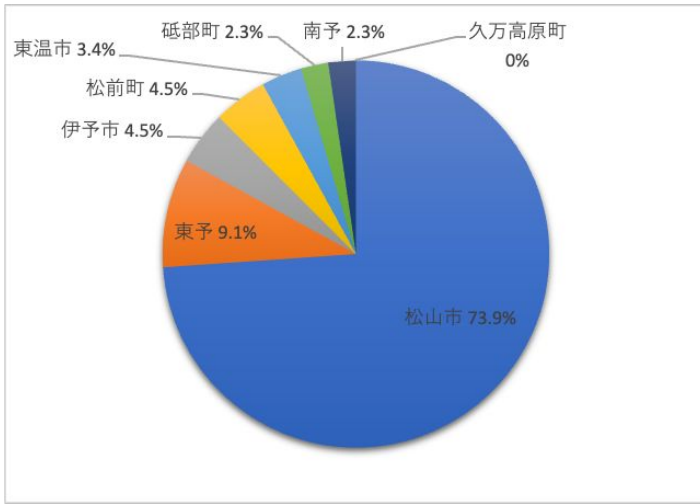


■来園者の居住地

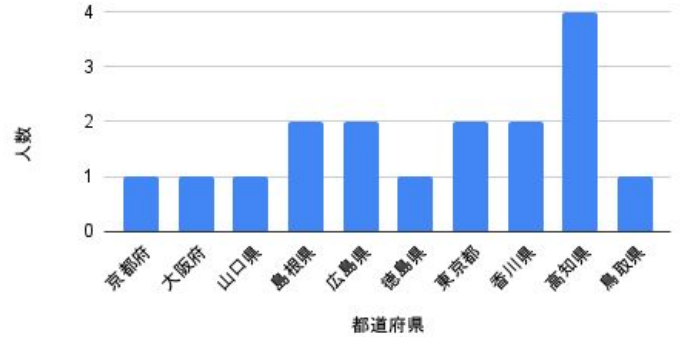


第3章：えひめこどもの城の概況

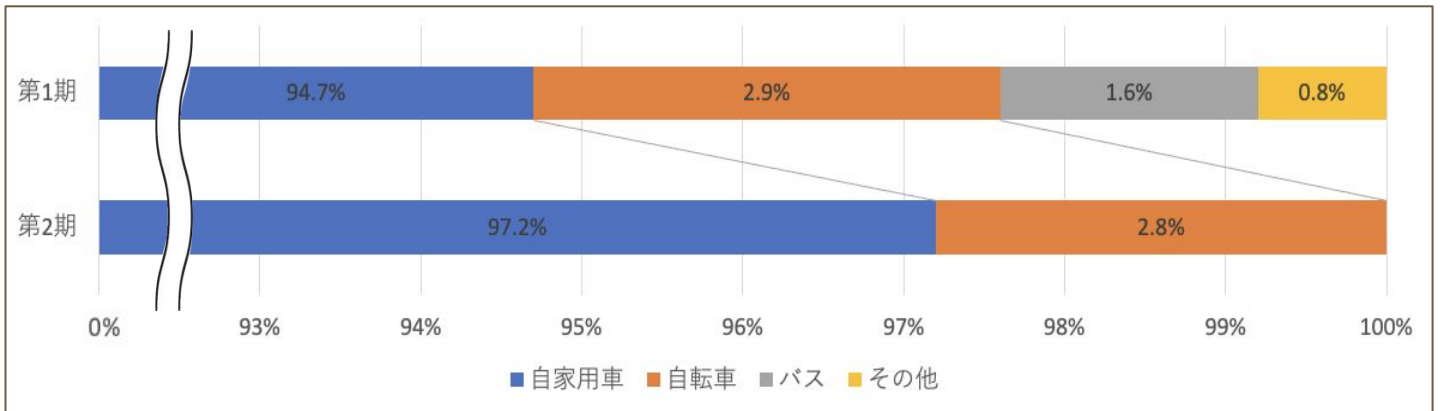
■ 県内来園者の居住エリア



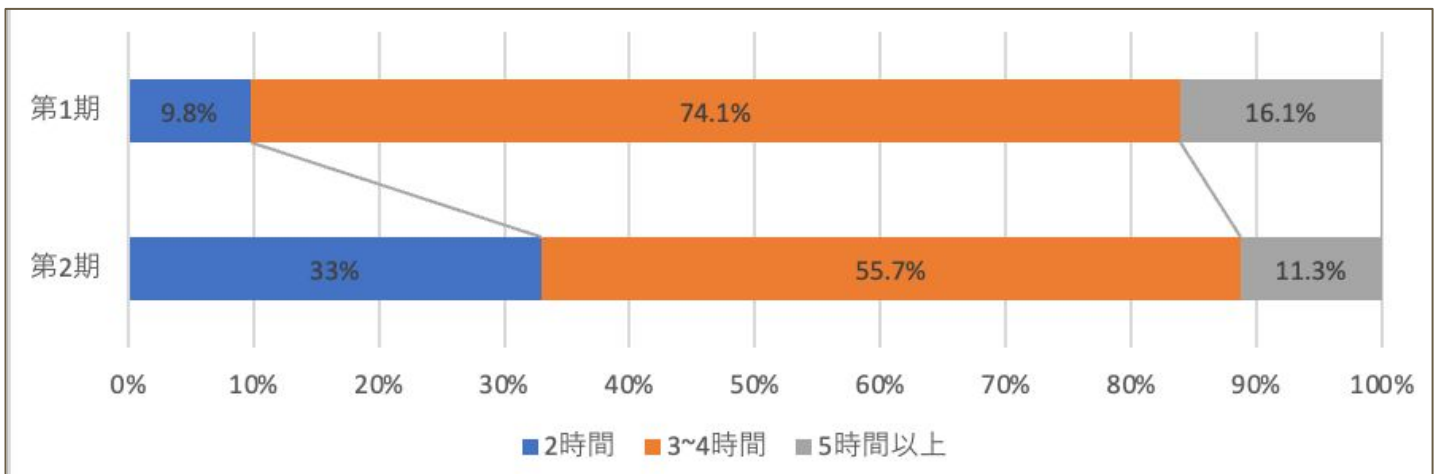
■ 県外からの来園者の居住都道府県



■ えひめこどもの城までの交通手段

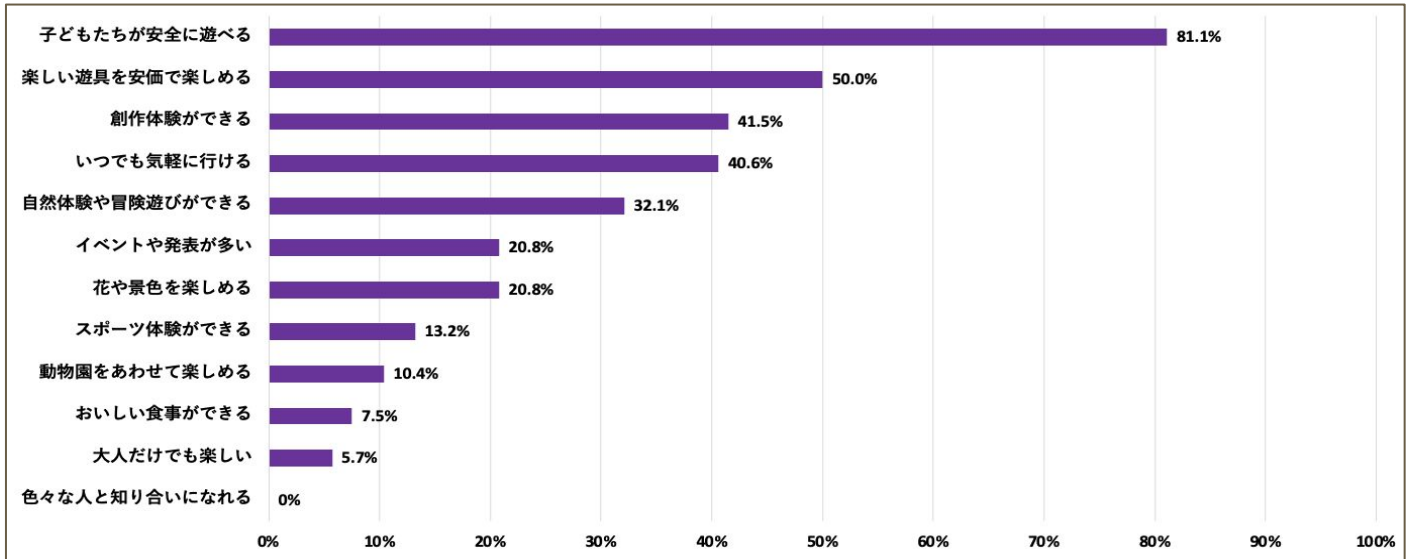


■ えひめこどもの城での滞在時間

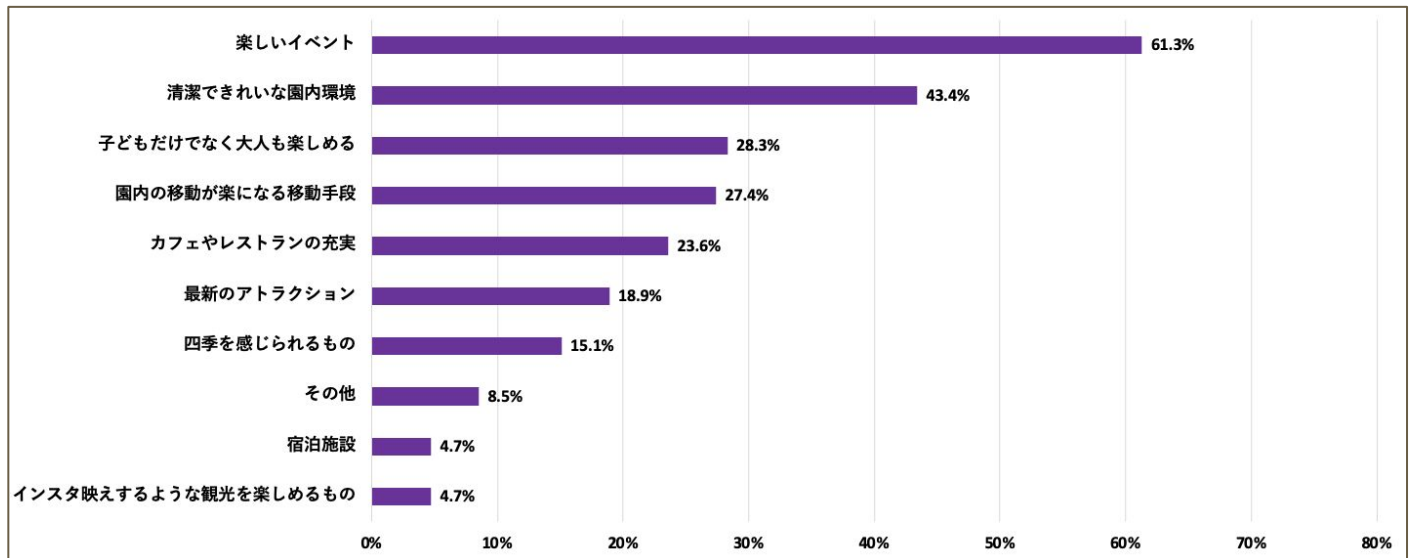


第3章：えひめこどもの城の概況

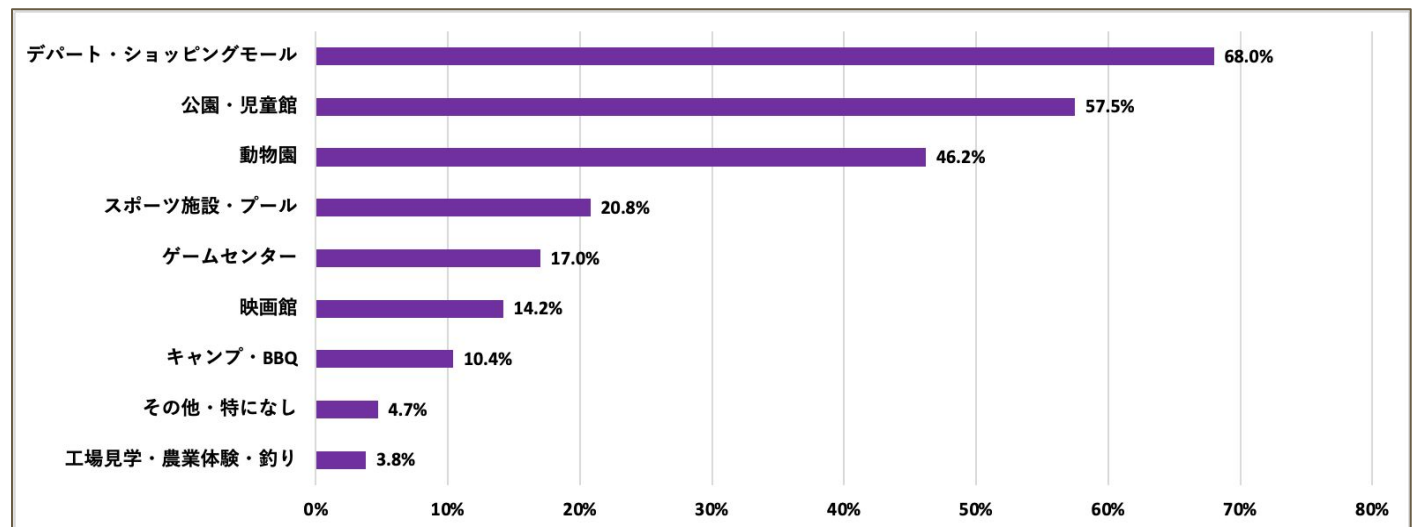
■えひめこどもの城のイメージ



■えひめこどもの城にあるといいもの



■よく訪れるレジャー施設



第3章：えひめこどもの城の概況

- 来園した子どもの90%以上が10歳未満であり、小学校高学年以上の来園者が少ない。小学校中学年以下の子どもたちの利用にも配慮しながら、高学年以上の子どもたちも興味を持てる遊具整備や体験活動、イベントの開催等により、成長段階に応じた利用を促進することが求められる。
- 来園者の80%以上は県内の居住であり、そのうちの70%以上を松山市からの利用者が占めるなど、近隣市町からの来園となっている。（今回調査は夏休み期間中に実施したため、2018年調査に比べて来園者の居住地について県外の割合が高くなっている。）
遠くからでも足を運ぶ価値のある体験の提供を充実させるとともに、とべもりジップラインやコシロ・アドベンチャーなどの魅力を県内外に広く周知する必要がある。
- えひめこどもの城の滞在時間について、2018年調査と同様、3～4時間との回答が最も多く、半日程度の滞在となっている。（2時間以下の滞在が増えているのは、今回の調査を暑い時期に実施したためと考えられる。）
- えひめこどもの城のイメージについて、「子どもたちが安全に遊べる」や「楽しい遊具を安価で楽しめる」などが上位となっている一方、えひめこどもの城にあるといいものとして「楽しいイベント」や「清潔できれいな園内環境」などの要望も高い。

これらから、さらに滞在時間を延ばし、満足度を高めるためには、**楽しいイベントの提供のほか、雨天時や暑い時期にも快適に遊べる遊具や空間の創出、園内で食事を取りたくなる工夫とともに、これらの魅力が伝わる広報が必要となっている。**



第1期戦略のご提案から、とべもりジップラインやコシロ・アドベンチャーなど、県外や小学校高学年以上の利用者にもお楽しみいただける整備を行ってきました。また、とべもり+（プラス）として、一体的な魅力の発信やイベントの開催などに努めています。

引き続き、安全で楽しいえひめこどもの城を提供できるよう、スタッフとともに邁進してまいります。

青野委員（行政／愛媛県男女参画・子育て支援課 課長）のコメント

第3章：えひめこどもの城の概況

(2) WEBサイト等での評価

レジャーや観光の行き先を決定するときに強い影響力を有するWEBサイトやSNSを調査し、えひめこどもの城の評価等を確認した。

◎WEBサイト

【ポジティブ】

- ・子どもたちが大喜び。特にコシロ・アドベンチャーを気に入っていた。
- ・雨の日も子どもを遊ばせることができるので助かる。
- ・入場無料がうれしい。
- ・ジップラインも他所と比べるとかなりお値打ち価格。
- ・ジップラインやボブスレーなど、大人も楽しめる施設がある。
- ・楽しいイベント企画が開催されているので、何度でも遊びに行ける。
- ・授乳室が完備されていて安心。

【ネガティブ】

- ・園内が広すぎて、巡るのに疲れる。
- ・施設の古さを感じる。雨の日は外の遊具で遊べない。
- ・共通乗り物券が使える施設と使えない施設(ジップライン、コシロ・アドベンチャー)があり、わかりにくい。

(調査サイト: Google、Tripadvisor、いこーよ)

◎SNS

デジタルネイティブ世代である若年層がレジャーや観光の行き先を決定するときに活用するSNSについて、えひめこどもの城と共通点のある大型児童館や中四国のレジャー施設を中心に、フォロワー数や投稿数等について調査した。

SNS	公式フォロワー数 #施設名投稿数	えひめこどもの城	さぬきこどもの国
	Instagram	1,884人 #5,572件	1,972人 #15,00件
X (旧Twitter)	1,029人	—	
Facebook	265人	1,608人	
LINE	10,769人	—	
YouTube	318人	70人	



旅行やでかける際に行き先を決めるとき、まずはSNSで調べますが、よさそうなスポットを見つけたら口コミや評価もチェックすることが多いです。口コミの評価が高いこと、口コミ件数が増えることは、えひめこどもの城への来園につながるための大切なポイントだと感じます。
家中委員 (利用者(若年層)/愛媛大学 学生)のコメント

第3章：えひめこどもの城の概況

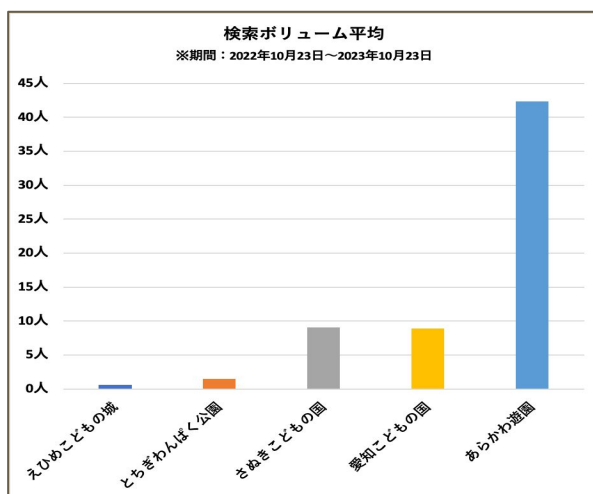
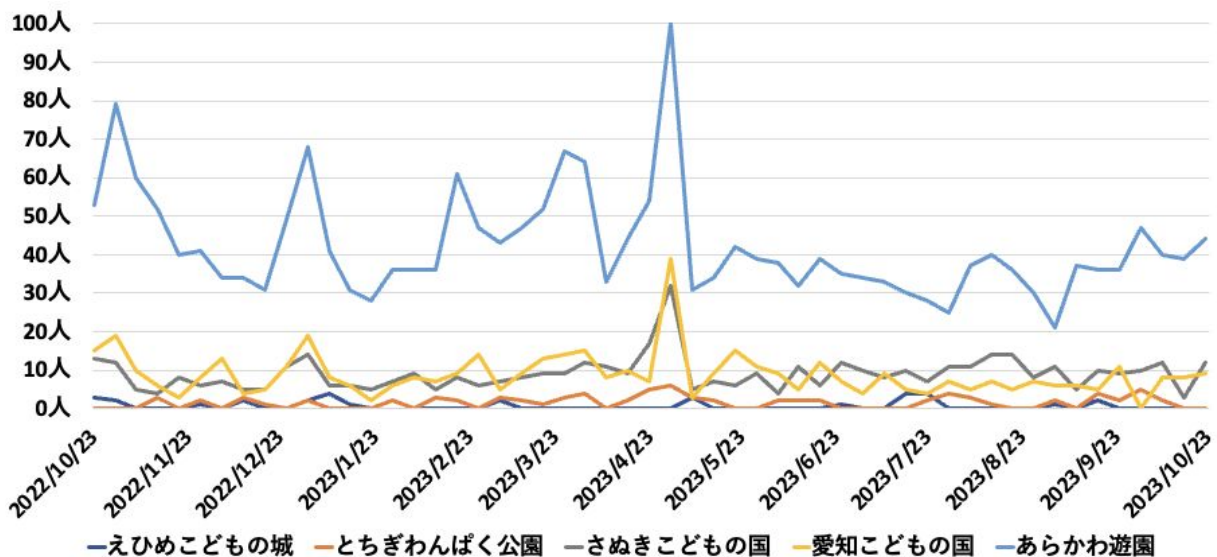
SNSでの「えひめこどもの城」の投稿状況調査

えひめこどもの城と共通点のある大型児童館や中四国のレジャー施設を中心にSNSでの投稿数や公式アカウント設置の有無について調査した。

施設名	設置	所在都道府県	入場料	年間来園者数 (2020年)	Instagram フォロワー	Instagram施設名 #投稿数	公式SNSアカウントの有無
えひめこどもの城	公	愛媛県	無料	約19万人	1783	5355件	有
とちぎわんぱく公園	公	栃木県	無料	約69万人	3516	7588件	有
さぬきこどもの国	公	香川県	無料	約26万人	1850	1.5万件	有
愛知こどもの国	公	愛知県	無料	約54万人	1498	7762件	有
あらかわ遊園	公	東京都	有料	約31万人※	なし※	1.7万件	有
NEWレオマワールド	民	香川県	有料	約37万人	4532	5.3万件	有
おもちゃ王国	民	岡山県	有料	約50万人※	7901	6.1万件	有
みろくの里	民	広島県	有料	約35万人※	3516	3.1万件	有

※あらかわ遊園は2018年データ、おもちゃ王国・みろくの里は平均来園者数
 ※あらかわ遊園はInstagramの公式アカウントなし。(旧:Twitter)のフォロワー数は1.5万人

● 公共施設との検索ボリューム※比較

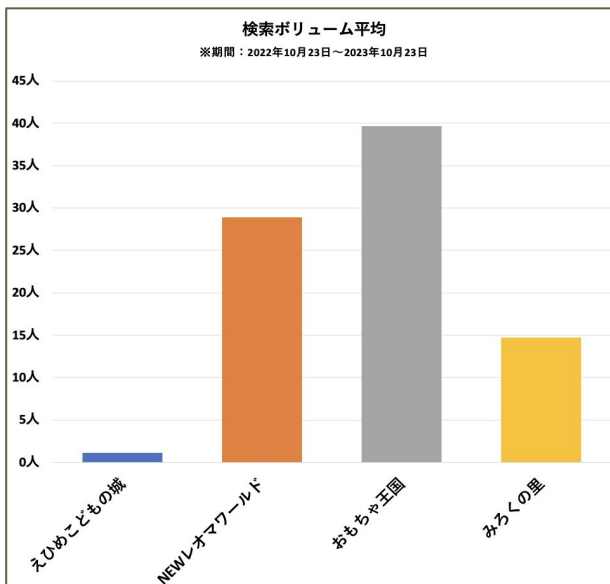
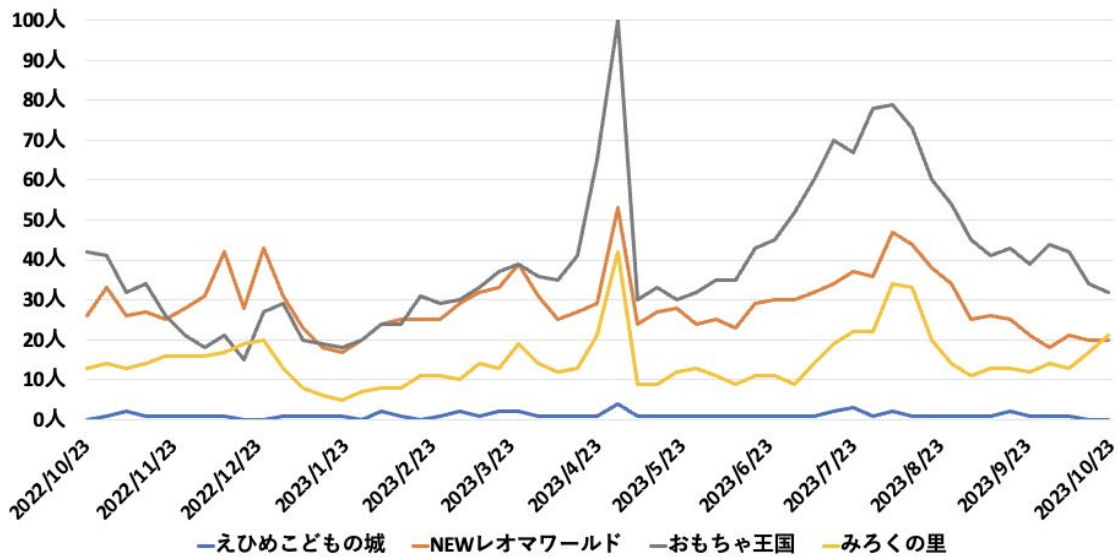


・Google Trendsで過去1年間の検索ボリュームを比較
<https://trends.google.co.jp/trends/>

※検索ボリュームとは一定期間にGoogleやYahoo!などの各種検索エンジンで特定のキーワードが検索された回数をいう。

第3章：えひめこどもの城の概況

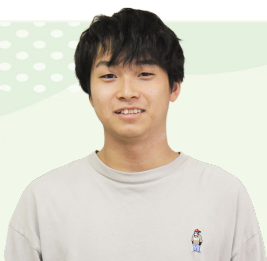
●民間施設との検索ボリューム※比較



えひめこどもの城からの情報発信を含め、WEBサイトやSNS上での魅力ある投稿が増えていくことが求められる。

・Google Trendsで過去1年間の検索ボリュームを比較 <https://trends.google.co.jp/trends/>

※検索ボリュームとは一定期間にGoogleやYahoo!などの各種検索エンジンで特定のキーワードが検索された回数をいう。



旅行やレジャーでは、自分自身がSNSに発信したくなる体験や写真が撮れるかということも大事なポイントになっています。

矢野委員(利用者(若年層)/愛媛大学 学生)のコメント

第3章：えひめこどもの城の概況

◎愛媛大学社会共創学部学生による調査と戦略立案

2023年5～7月に愛媛大学社会共創学部産業マネジメント学科の学生が、えひめこどもの城の来園者増を目的とした戦略案を検討。大学生からは、スマホ世代ならではのデジタルやSNSを活用したアイデア、同世代の中高大学生をメインターゲットにした来園者増の戦略案が立案された。

■課題

えひめこどもの城の来園者を2028年までに年間45万人に

→「来園者が年間2万人以上増加する戦略」を考える

[戦略策定のポイント]

- ・戦略は複数の施策を組み合わせる。
- ・次のいずれか1つは施策に反映させる。
[A 中・高校生の来園者増] [B 県外からの来園者増] [C とべもりジップラインの利用者増]
- ・新しい遊具や建物の整備は、県有の児童館としての本分を逸脱しない等諸条件を満たす。

■進行

①課題提示

②中間発表

5～6人のグループごとにえひめこどもの城の現地調査

課題や改善ポイントを整理して戦略案を発表

愛媛県とえひめこどもの城からのフィードバック

③最終発表

フィードバックを踏まえた戦略案を再考し、最終提案内容を発表

■戦略案 ※抜粋

1)XR技術(VR、AR、MR等)の導入

○XR技術を導入し「ハイテク児童館」へ

立案理由

- ・話題性があり、中高生がわくわくできる
- ・雨の日でも戸外の遊具がVRで体験可能

2)映えスポットの制作、映えるアイテムの開発

○「ジップラインをイルミネーション」「ジップライン滑走時の仮装」(例)天使の羽根、動物や昆虫になりきりセット

○「フォトスポット設置」(例)アンブレラスカイ、フォトスポットなど

立案理由

- ・SNSでの発信が欠かせない時代、来園を決定づけるにも、来園して情報発信するにも映えが必要だから

○「えひめこどもの城を花の名所とする」(例)夏…ひまわり 秋…コスモス など

立案理由

- ・松山近郊には、花畑の名所が少ない
- ・児童館と地域の繋がりを作ることができる
- ・季節ごとの花をPRすることでシーズンごとに来園促進が可能

3)大型イベント開催

○中高生が行きたいと思うイベントを長期休み期間に開催する

(案)「謎解きゲーム」「巨大パフェづくり」「定期的な夜間の延長営業日の設定」

立案理由

- ・中高生の興味を刺激し、来園促進

4)新規遊具施設の設置

○「室内スケートボードパーク」

立案理由

- ・天候に左右されない
- ・東京五輪で注目を集めている

○「ドッグラン」

立案理由

- ・新たな層の来園につながられる
- ・砥部周辺に、ドッグランやドッグカフェが少ない
- ・ドッグラン新設によりワンちゃんイベントも開催できる ※現在えひめこどもの城はペットの入園禁止



第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

1 えひめこどもの城の将来像

だれもが“^えが^お愛顔”になれる「冒険」と「やすらぎ」のシンボルパーク



第1期戦略は、えひめこどもの城開園20年の節目を機に、多角的にえひめこどもの城の将来像について思いを巡らせ、これから先も、様々な方の多様なニーズに応えることができるふるさとの「マルチパーク」として、県民のだれもが誇りと愛着を持って利用し、みんなで育んでいく施設となるために有効と考える取組みとして取りまとめられました。

その後、少子化の進行や地域交流の減少、塾や習い事など学校外活動に追われる生活への変化により、子どもの遊びの時間・空間・仲間も変化するとともに、技術革新や感染症の拡大等による社会の変化が子どもたちに大きな影響を与えています。

インターネット・SNSやオンラインゲームの普及は遊びの室内化や一人遊びを促進し、「物理的な距離を超えて、つながりたい人に、いつでも、つながれる」人間関係を広げる一方で、顔の見えない、不特定多数の人ともつながることからコミュニケーショントラブルの増大を引き起こし、かえって孤独化を促進している一面もあります。

また、自然環境や生活体験、文化伝統的な行事など直接的な活動に加えて、AIやICTをはじめとする技術躍進により、テクノロジーを駆使したバーチャル体験やプログラミングを用いた創造的な活動が生活の一部となった子どもの世界は、刺激と情報量に富むものになっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響による、学校や課外活動の縮小など、他者との接触や体験の場面が失われ、子どもにとって成長・発達に必要な「遊び」の機会が減少することとなりました。改めて子どもたちにとっての遊びや、同年齢・異年齢・異世代との交流の重要性が認識され、子どもがまんなかの児童厚生施設に求められる役割は、ますます多様性に富み、創造的なものとなっています。

このような新たな変化の中で、えひめこどもの城は開園25周年を迎えました。開園当時に通っていた子どもたちは子育て世代に、その親たちは祖父母の世代に。年月が経ち、世代が移っても変わらないのは、えひめこどもの城が子ども・若者・子育て家庭・子育て家庭を支える世代・地域の皆様の「夢と希望のシンボル」であり続けてほしいという希望です。

そのためには、大型児童館の持つ、子どもが子どもらしく成長するために必要な「遊ぶ」を軸にした児童健全育成推進の地域のハブ機能を強化し、様々な変化を乗り越えてえひめこどもの城がもつ人的・物的資源を最大限に生かした「わくわく感」と「やすらぎ」を、多くの来園者に与える施設であり続ける必要があります。

今回第1期戦略の理念を受け止め、子どもたちやさらに未来の子どもたちの愛顔に思いを馳せ、将来に渡ってえひめこどもの城が愛されるための取組みとして「第2期えひめこどもの城魅力向上戦略」を取りまとめました。私たちは、えひめこどもの城がこれからを生きる子どもたちや子育て家庭の心の支えとなり、自身が思い描く希望の実現に向けて前に進む、愛顔あふれる未来につながる施設であり続けることを願っています。

第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会 委員一同

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

2 将来像の実現に向けた基本的な考え方（行動目標）

えひめこどもの城の将来像の実現に向けて「ひと」「まち」「もり」「しくみ」の4つの観点に基づく基本的な考え方を定め、具体的なアクションの方向性を示す。

① ひと～hito～

『子どもから高齢者まで幅広い世代の来園者が愛顔になれる施設づくり』

それぞれが、楽しく快適に過ごせる場所と時間を提供し、多様な利用ニーズに対応する。

季節の利用例		来園者の世代		利用目的の例
春		子ども(小学生以下)		遊び・冒険
夏	×	子ども(中・高校生)	×	創作・発表
秋		大人(学生・社会人等)		仲間づくり・交流
冬		大人(高年齢層等)		スポーツ体験

② まち～machi～

『とべもり+の各施設や地元と一体になった愛顔あふれる施設づくり』

とべ動物園をはじめとする周辺の施設やイベント(祭り等年中行事)、産業(営農等)、文化・アートと連携を図りながら、エリア全体で魅力ある空間づくりを進めることで、施設やまちの価値を高める。

③ もり～mori～

『中四国最大級の敷地(もり)を活かした愛顔育む施設づくり』

豊かな自然や敷地の高低差などの特色を活かしたアスレチックゾーンを構築し、子どもたちを冒険の世界に誘い、すべての利用者の健康増進エリアとして活用する。

④ しくみ～shikumi～

『様々な担い手により愛顔をつなぐ施設づくり』

幅広い世代の多様な立場にある人が集い、愛媛の未来につながるアイデアで施設運営を進め、魅力ある施設の実現を目指す。

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

3 将来像の実現に向けたハード整備計画

(1) 方針

様々な大型遊具がえひめこどもの城の魅力となっているが、人気が高い遊具も老朽化が進んでおり、人気遊具の運行休止は来園意欲を低下させ、利用者が減少する恐れが高いとともに、故障等により利用者の安全確保に支障が生じる可能性がある。一方、遊具をリニューアルすることで、子どもたちをはじめとする利用者の冒険心を刺激し、来園促進効果が期待できる。

なお、適切な管理のため、引き続きターゲット層及び園内周遊コースの設定によって広大な敷地を有効かつ効率的に活用する。

(2) 整備項目

① 早期にリニューアルが必要な大型遊具

- ・人気が高い
- ・老朽化が進んでいる
- ・リニューアルによって来園促進効果が期待される

■ トランポリン遊具（ふわふわドーム）

自然の中でのびのびと遊べるふわふわのトランポリン。
3歳から小学生まで利用できる。



孫と来た際には、必ず遊んでいます。無料なので直接的には施設としての収益にはならないかもしれませんが、多くの利用者を惹きつけていて、えひめこどもの城に必要な遊具だと思います。

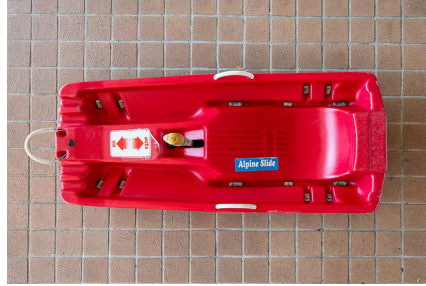
ただ、雨の時や真夏の太陽の下でも安心して遊べるようになれば、より多くの来園者が期待できると思います。

山口委員（利用者（三代利用）／株式会社NANATO 取締役副社長）のコメント

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

■スライダー遊具（ボブスレー）

「てっぺんとりで」から「冒険ステーション」まで、約360mをソリで一気に滑り降りる遊具。身長、年齢制限がある。雨天時は使用中止。



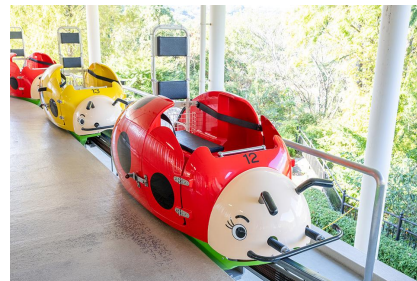
子どもが小さい頃、えひめこどもの城に来たら子どもにせがまれて何度も滑りました。あの爽快感は子どもも大人も夢中になります。利用者が多くなるとどうしても待ち時間が長くなります。待ち時間に子どもが楽しめる工夫や子育て支援の情報配信など工夫が必要だと思います。友川委員（学識経験者／松山東雲女子大学 准教授）のコメント

■園内移動手段（ロードトレイン）



園内（2km）6カ所にある停留所から乗り降りでき、約30分かけて1周する。

■園内移動手段（てんとう虫のモノレール）



「冒険ステーション」と「てっぺんとりで」を結ぶモノレール。上り便と下り便で片道運行。



ロードトレインは当園のシンボリックな乗り物で、広い園内の周遊には必要不可欠ですが、故障による運休がたびたびあり、ご期待に応えられないことがあるのが残念です。また、運転手等のスタッフのやりくりにも苦慮しています。てんとう虫のモノレールはてっぺんとりでへの移動手段を兼ねてご利用いただく方が多いように見受けられます。外観はきれいですが、実はレール部分が老朽化しており、修繕を重ねている状況です。自動運転電動カートの導入や他の遊具のリニューアルによる来園者の動線の変化によっては、どちらも存廃や新たな周遊手段導入の検討が必要と感じています。敷村委員（施設管理／えひめこどもの城 園長）のコメント

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

②新たに整備を検討すべき遊具（有料・無料）

- ・来園の目的になる
- ・冒険心を刺激し、長期間愛される

■ミニSLの復活

（運行時）



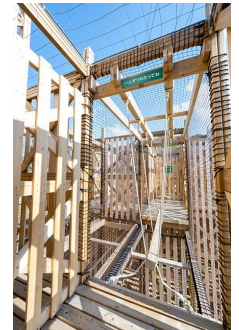
（現状）



子どもが小さいときに来園した際は、必ず乗車していたので、廃止は大変残念でした。今は孫と来園していますが、同年代の方からも、「今度は孫といっしょにあの頃と同じように利用したい」という声をよく聞くので、復活したら新たな目玉になるのではないのでしょうか。
山口委員（利用者（三世代利用）／株式会社NANATO 取締役副社長）のコメント

■冒険心を刺激する遊具

コシロ・アドベンチャー
（2023年オープン）

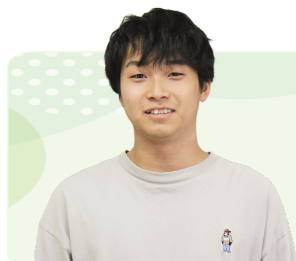
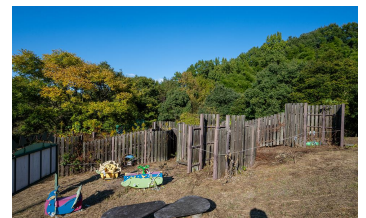


「コシロ・アドベンチャー」はオープン以来、子どもから大人まで、多くの方に楽しんでいただいています。大型児童館として、体を使って楽しみ、成長を促す遊具が必要だと感じています。

敷村委員（施設管理／えひめこどもの城 園長）のコメント

■大型複合遊具

（森の広場）



子どもの頃は、森の広場の無料遊具で思い切り遊んでいた記憶がありますが、今はほとんど利用できないと知り、寂しいです。子どもたちが時間を忘れて夢中になって遊べる無料遊具は必要だと思います。

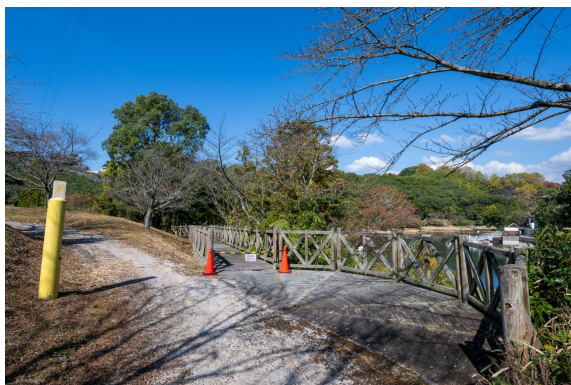
矢野委員（利用者（若年層）／愛媛大学 学生）のコメント

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

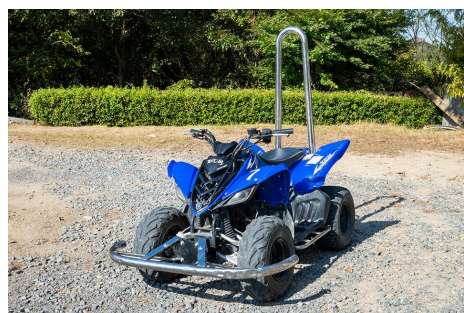
③廃止・用途変更等幅広く検討すべき遊具等

- ・安全性の確保が困難になりつつある
- ・利用者の減少
- ・他の遊具等との競合

■遊歩道



■四輪バギー



■コシロちゃんバス（小型ノンステップバス）



第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

④その他

- ・安全利用に必要な修繕等を実施
- ・メンテナンス費用等も踏まえて収支を見直し、必要性・採算性を考慮

■ボート及びボートのりば



他の施設ではあまり見かけない足漕ぎボート。白鳥や花など、デザインもかわいいと思います。若者向けには、アクティビティ感の強いペダルボートみたいなものも、いいのではないのでしょうか？

家中委員(利用者(若年層)／愛媛大学 学生)のコメント

■森のとりで(キャンプ施設)



キャンプイベント等で活用していて、親子やグループでいっしょに体験活動ができます。老朽化しているところがありますが、修繕しながら利用しています。

敷村委員(施設管理／えひめこどもの城 園長)のコメント

■サイクルモノレール受付跡地

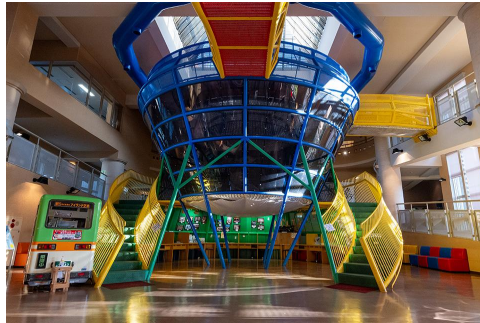


てっぺんとりでは、とべもりジップラインのハーネス装着場やボブスレー、てんとう虫のモノレールなど、人が集まる場所ですが、2階が資材置き場になっています。せっかく人流のハブになっている施設なので、ぜひ有効活用してもらいたいです。

山口委員(利用者(三世代利用)／株式会社NANATO 取締役副社長)のコメント

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

■ あいあい児童館内遊具



子どもたちの楽しそうな声が聞こえてきます。天候に関係なく、みんなで体をいっぱい使って遊べるのがいいですね。開園のときから設置されているので、修理や交換など安全確保をお願いします。

友成委員(利用者(若年層)/愛媛大学 学生)のコメント

■ XR(VR・AR・MR)技術の体験



新しい技術の体験は、貴重な経験です。デジタル技術の活用は、中学生・高校生の来園動機になります。また、低年齢層のお子さんも、ゲーム性を持たせるなどすれば、楽しく体験できると思います。

内容をすべて施設側で用意するのではなく、企業や大学、専門学校等の知識や興味のある方々が企画を持ち込む参加型の運営ができれば、協働型の良い試みになると思います。

友川委員(学識経験者/松山東雲女子大学 准教授)のコメント

■ 駐車場の拡張



当園は、立地上自家用車ででの来園がほとんどです。過去には、園内の駐車場がいっぱいになったときに民間のスペースをお借りしていましたが、今はそのスペースが無くなってしまいました。

えひめこどもの城を訪れたいとくださる年間46万人のみなさんを受け入れるためには、駐車場の立体化など、収容台数を増やす必要があります。

敷村委員(施設管理/えひめこどもの城 園長)のコメント

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

4 ターゲットの設定及び想定する周遊コース

(1) ターゲットの設定

身近な施設としてえひめこどもの城を利用している地域住民や現在の主な利用者層である子ども連れ家族層のほか、向上の余地が大きいターゲット層を加えて設定



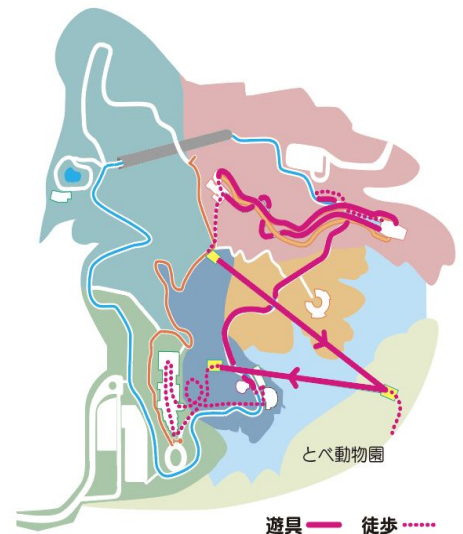
- ① 初めての来園者 県外を含む観光客、めったにこない中高生（夏休み等）
- ② リピーター 主に県内、近郊の小学生がメイン
- ③ 家族連れ 比較的低年齢（未就学児）の子どもを伴う家族連れ
- ④ 大人 カップルや高齢者、女性グループ

(2) 周遊コース（案）

① 家族連れの1日満喫コース

所要時間 約6時間（10:00～16:00）

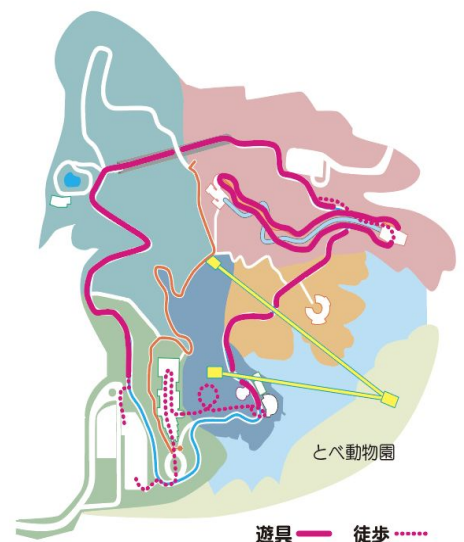
- A とべもりジップライン（行き）
〔とべ動物園〕
- B とべもりジップライン（帰り）
- C レストラン
- D コシロ・アドベンチャー
- E スライダー遊具
- F 園内周遊遊具・あいあい児童館・ボート・トランポリン遊具など



② 小さな子どもと半日コース

所要時間 約3時間（11:00～14:00）

- A あいあい児童館
〔軽食〕
- B トランポリン遊具・芝生広場・じゃぶじゃぶ水路 など
- C 遊具遊び〔園内周遊遊具、スライダー遊具など〕

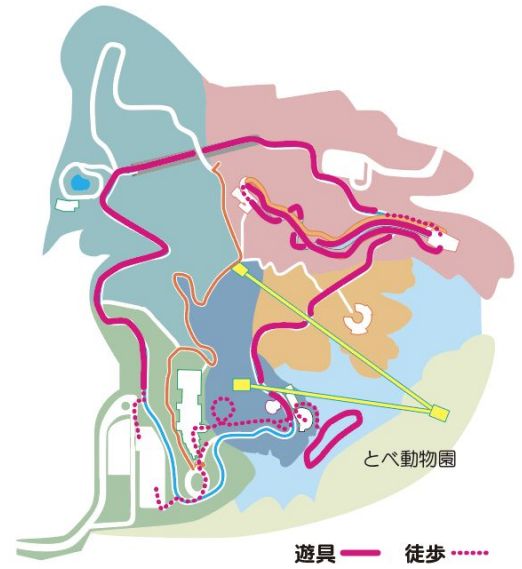


第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

③ わんぱくキッズの半日コース

所要時間 約3時間(11:00~14:00)

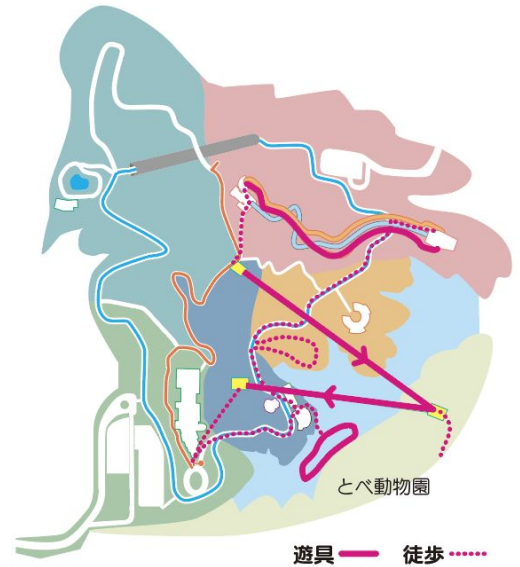
- A 遊具遊び
〔コシロ・カート、スライダー遊具、コシロ・アドベンチャー、ボートなど〕
〔軽食〕
- B トランポリン遊具・芝生広場・じゃぶじゃぶ水路 など



④ カップル・観光コース

所要時間 約4時間(10:00~14:00)

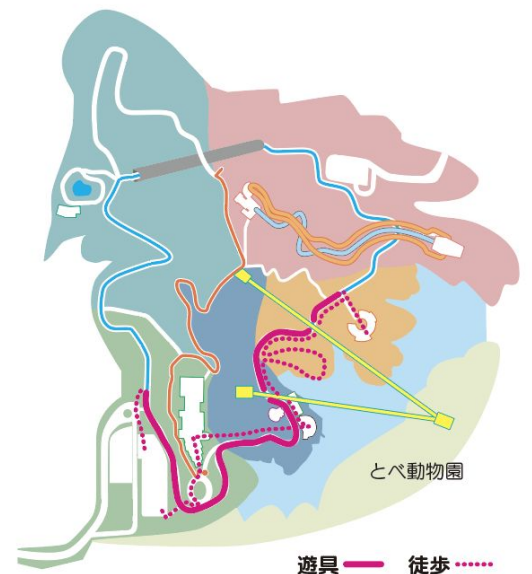
- A コシロ・アドベンチャー
- B とべもりジップライン(行き)
〔とべ動物園〕〔レストラン〕
- C とべもりジップライン(帰り)
- D ボート
- E 花の丘



⑤ ほのぼの大人コース

所要時間 約3時間(10:00~13:00)

- A 創作工房
- B 花の丘 散策
- C レストラン



第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

（3）中高生をはじめとする新しい来園者層の利用促進

児童館は、小学生以下の小さい子どもやファミリーの遊び場というイメージを持たれがちであるが、18歳未満のすべての子どもを対象とし、地域における遊びや生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し情操をゆたかにすることを目的とする施設である。そのため、えひめこどもの城においても、中学生、高校生等の子どもが集い、お互いの気持ちを表現し合うことによって自分と仲間に対して信頼と安心を抱き、安定した生活の基盤を築くとともに、文化的・芸術的活動、レクリエーション等に、自らの意思で挑戦することを通して成長する自己実現の場を提供し、その葛藤や成長に寄り添い、喜びを共有する等の役割が求められる。

そのためには、中学校や高校等への学校活動での利用の働きかけに留まらず、くわがたのステージや多目的ホールを部活動や発表会等で活用するなど、幅広い用途での利用が必要となるが、並行して、それぞれの施設がより利用しやすく、また利用したくなるようなハード整備も検討しなければならない。

また、企業との協働等によるデジタルをはじめとする新技術の体験や、えひめエコ・ハウスを利用した環境学習等、新たな体験・学習機会を付与するとともに、ボランティア活動等の活性化など、利用機会の創出・増加を図っていく必要がある。



えひめこどもの城は楽しい遊具だけでなく、自然の中で体験活動をしたり、癒されたりすることができるので、中高生にもぜひ利用してもらいたいですが、勉強や部活動に忙しい時期でもあるので、学校行事や部活動での活用や、近くの施設に行くついでの利用など、きっかけを多く作ってほしいです。

また、地理的条件から自分で来られる中高生は限られるので、保護者や大人が連れて行きたくなるような工夫やイベントがあればいいと思います。

堀田委員（利用者（一般））／NPO法人ワークライフ・コラボ 代表理事）のコメント



とべもりジップラインのオープン以来、若年層をはじめ来園者の年齢層は幅広くなったと感じています。また、夜間イベントなど、若年層にも楽しんでいただけるイベントも開催しています。

20代くらいの来園者からは「10年ぶりに来ましたが、また楽しめました」という声もいただくので、「小さいお子さん以外も楽しめるえひめこどもの城」をアピールしていきたいです。

敷村委員（施設管理／えひめこどもの城 園長）のコメント

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

5 具体的な行動計画（アクションプラン）

(1) 魅力づくりのための4つの視点

えひめこどもの城の現状を踏まえ、次の4つの視点から魅力づくりを推進

魅力向上のための4つの視点

① リブランディング

豊かに広がる自然やアウトドアを核にえひめこどもの城の世界観を統一し、イメージや印象を向上させ、良い思い出をつくる場所としてブランディングする。

② 新しい遊びの開拓

えひめこどもの城のシンボルである児童館(建物)と自然(アウトドア)を活用し、「アクティビティ」・「レクリエーション」・「アドベンチャー」をテーマに新しい遊びを開拓する。

③ 空間(エリア)連携

とべもり+の各施設や地元市町と連携し、回遊の促進やリピート率の向上により、エリア全体としての魅力を創出する。

④ 運営面での取組み

施設全体の整備や管理の効率化を図る。

企業協賛イベントやボランティア活動・スポンサー制度等、民間活力を導入し、イベント開催や遊びプログラムを活性化する。

(2) 取組みの展開例

(1)で掲げた「魅力づくりのための4つの視点」のもと、次に示す「期待する効果」の実現に向け、各取組みを展開していく。

特に、戦略的に推進していく必要のある取組みについては、重点プロジェクトとして位置づけて、進捗状況を把握することで、着実な魅力向上を進める。

効果 その①

ふるさとのシンボルであり、子どもたちの自慢の施設となる

効果 その②

新たな観光拠点となり、とべもり+とともに集客力が向上する

効果 その③

エリア全体の観光・交流人口を拡大し、地域が活性化する

効果 その④

多様な主体が持つ特性を活かし、オール愛媛で子どもや子育てを応援する機運を醸成する

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

ふるさとのシンボルであり、子どもたちの自慢の施設となる

遊びから+（プラス）学び・体験へ（中高生もターゲットとした集客促進）
～様々なイベントや活動を通して、かけがえのない「時間（とき）」をつなぐ～

① 明確な施設テーマの共有

- ◆「冒険」と「やすらぎ」をテーマに、施設全体のブランディングを進める。
- ◆まちと施設を一体的に楽しめるよう、周辺道路と各施設の案内板のデザインに統一感を持たせるなどの取組みを進める。
- ◆県や指定管理者による情報発信に加え、利用者による情報発信を生み出せるようなICTなどの新たな仕掛けを作る。【重点】

② 魅力ある遊具の設置

- ◆えひめこどもの城のイメージに沿いながら、利用者の冒険心を刺激する大型遊具の整備【重点】
- ◆中高生の来園目的となる遊具や仕掛けの整備【重点】

③ 魅力あるイベントの開催・誘致

- ◆近隣施設や指定管理者と連携を図り、えひめこどもの城ならではのロケーションや敷地を活かした多様なイベントを実施する。（スポーツイベントや野外ライブ等）
- ◆中高生や大人も参加できるサークル、体験プログラムを実施する。（陶芸（創作工房）、染め物、料理、花植え（花の丘、ハーブ園等）、体力増進 等）
- ◆中高生がイベントの企画・運営に参画できる仕組みの構築を図る。
- ◆大型イベント開催時は、公共交通機関等と連携し、来園手段を拡充する。
- ◆休憩コーナーや撮影スポット、飲食スペースを拡充する。
- ◆えひめエコ・ハウスと連携し、環境教育の充実等を図っていく。

④ アート活動の拠点づくり（創作活動、伝統の継承）

- ◆学校区を越えた自発的な創作活動グループを育成する。
- ◆「えひめアートプロジェクト」等を通じ、アートの拠点として全国に発信する。【重点】
- ◆文化伝統の継承を目的としたプログラムを実施する。

⑤ いつでも安心して安全に利用できる場所の提供

- ◆学校等と連携し、開園時間や公共交通機関の情報の周知を図り、平日の利用も促進する。
- ◆子どもたちの生活実態等を把握し、ニーズに対応する。
（開園時間の見直し、学習支援等居場所づくり、体力増進、クラブ活動等）
- ◆施設の利用ルールの見直しを行い、使いやすさにつなげる。
- ◆防犯体制を強化する。（夜間照明、防犯カメラ、放送設備、緊急通報システム等）

新たな観光拠点となり、とべもり+とともに集客力が向上する

点的利用から面的利用へ（地形や自然を活かした集客促進）
単独から複合へ（とべもり+での連携による集客促進）
～ほかにはない複合的な「体験ゾーン」を形成～

① 利用促進につながる連携した広報

- ◆連携の象徴であり、移動そのものがアトラクションともなっているとべもりジップラインを核とした広報を実施する。【重点】
- ◆魅力の異なる施設の連携を広く周知するため、様々な媒体を活用する。【重点】

② 魅力ある遊具の設置

- ◆共通する年齢層である小学校低学年までの子どもたちや家族連れに人気の高い大型複合遊具を設置する。【重点】
- ◆子ども広場（県総合運動公園）や遊歩道内の休憩スポットの遊具・施設の計画的な改修を進める。
- ◆子どもだけで安全に遊べるスペースを確保する。（無料かつ安全安心な遊び空間）

③ 円滑な周遊のための移動手段の整備

- ◆自家用車以外でも複数の施設が周遊利用できる移動手段を整備する。【重点】
- ◆とべ動物園とえひめこどもの城をつなぐ橋の設置について継続して検討する。

④ 魅力あるイベントの開催・誘致

- ◆タイアップイベントを実施する。【重点】
 - ・統一コンセプトやイメージのもと、エリア内を周遊する参加型イベント
 - ・異なる魅力を活かしたコラボイベント（イルミネーション、キャンプ、SDGsなど）
 - ・相互への出張イベント
- ◆森や池でつながる施設間の空間としての魅力を活かしたイベントの誘致を図る。
- ◆四季を感じることができるよう、季節ごとに花が咲く空間の整備を進める。

第4章：第2期魅力向上推進プラン（魅力向上戦略）

エリア全体の観光・交流人口を拡大し、地域が活性化する

子どもから+（プラス）家族・大人へ（大人の視点を加えた集客促進）

昼中心から+（プラス）夕方・夜間へ

（遊びや学びの時間帯の変化を踏まえた集客促進）

～子どもが主役になって楽しむ場所に、大人も憩い・楽しむことができる場としての機能や夕方・夜間特有の魅力（星空、ライトアップ）を活用したアクティビティを付加～

① 交流拠点の設置

- ◆敷地の中心に位置するてっぺんとりで（標高170m）のロケーションを活かし、園内周遊のハブスペースとして、飲食イベントや周遊イベントなどを誘致し、施設利用者と地域の居住者、就業者、観光客が憩い交流できるにぎわいの場を創出する。【重点】
- ◆えひめこどもの城で民間事業者が新事業・新商品の開発・テスト販売等の場に活用できるようにし、地域の魅力を伝える交流拠点として提供する。

② 来園しやすさの向上

- ◆多彩な自然空間を連動させ、施設内の回遊性を高める。
- ◆周遊コース別の適切な案内表示を行う。【重点】
- ◆夏場の暑さ対策の実施
- ◆市街地からのアクセス改善を検討する。（シャトルバスの運行等）
- ◆施設内のユニバーサルデザイン化を推進する。
- ◆周辺施設と連携・協力したサービスや連続性、一体感の創出により、来園しやすさの向上を図る。
- ◆県外からの観光客が来園しやすくなるよう、エリア全体を観光ルートとする旅行企画の開発、旅行会社及びメディア等への情報発信の強化に取り組む。
- ◆授乳やオムツ交換がしやすい設備を配置する。
- ◆食事の時間を楽しめるよう、県産材を活用した調度や遊具を配置した新しい食の空間を創出して木育を推進し、滞在時間の伸長を図る。【重点】
- ◆分かりやすいWi-Fiエリアの表示および増設を推進する。

③ 特別（非日常）を意識した上質な空間の提供

- ◆ターゲットを大人に絞った、本格的な料理やイベント、リラクゼーションの提供を意識したイベントの開催
- ◆見ごろの花などの情報の周知方法を工夫し、四季を通じた植栽で「花の名所」を創出する。
- ◆地域に開かれた緑豊かな施設として、周辺エリアとの連続性や一体感を強化し、四季を通して楽しめる花木の植栽や美観の向上により、憩いから健康づくりまで様々な利用を促進する。
- ◆写真投稿に適した景観の整備や話題性の高い撮影スポットの創出
- ◆野外キャンプ等宿泊イベントの開催や星座観察会の開催による、利用者層の拡大（町市外や県外からの参加者の呼び込み強化）【重点】

④ 地域住民の利用促進

- ◆樹木・竹林の取扱基準を定め、園内の主要動線や遊歩道等の見通しの確保や危険木の伐採、適正な樹種の管理を行う。
- ◆四季の移り変わりや野鳥の観察等を楽しみながら散策できるよう、植栽や、樹木・遊歩道等の管理方法を検討し、地域の「庭」としての機能を高める。

多様な主体が持つ特性を活かし、 オール愛媛で子どもや子育てを応援する機運を醸成する

運営面の見直し：統一的ブランディング ～すべての子どもを育み、子育て家庭を支える～

① 賑わいや子育ての楽しさの波及

- ◆とべもり+をはじめとする施設の周辺エリアと一体になった統一的ブランディングにより、地域全体が多彩に賑わい、地域の暮らしや子育てを楽しめるエリアとして活性化する取組みを推進する。【重点】

② 多様な活動の受入れ

- ◆県内の児童館等児童福祉施設の中核機関として、不安や困難を抱える子どもや子育て家庭に気づき、適切な支援につなぐ。
（関係機関との連携構築、職員の研修の実施等資質向上、子どもや子育て家庭へのメッセージの配信等）【重点】
- ◆幼稚園や学校などの遠足や修学旅行等での団体利用を促進するとともに、部活動やサークル活動等でも活用されやすいよう、整備を進める。【重点】
- ◆知識や興味のある外部人材が企画を持ち込む参加型の仕組みを整備する。【重点】
- ◆年齢やグループに関わらずに楽しめる様々な体験や学びを提供する。
- ◆民間活力を導入したイベントの開催のほか、イベント・事業への協賛企業の募集、広告の場としての活用を進める。
- ◆指定管理者や地域住民、企業等、様々な関係者が参加・協力する体制の構築を進める。

③ 持続可能な施設の管理・運営

- ◆収益事業の拡大や開園時間、利用料金の見直しにより、収入拡大と運営経費の適正化を図る。
- ◆遊具及び施設等の修繕・改修等に還元させ、持続可能な施設として運営する。

えひめこどもの城魅力向上戦略の推進イメージ



重点プロジェクトに位置付け、優先して実現を図る取組みは、**本主**の行動計画に盛り込んでいる。

付 録

●第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 えひめこどもの城は、施設や遊具の老朽化が進行しており、時代や社会のニーズに対応した持続可能な施設となるとともに、とべ動物園・愛媛県総合運動公園・えひめ森林公園等との連携策を含めた魅力向上に向けた戦略を検討するため、第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- (1) えひめこどもの城の中長期的な運営方針に関する事。
- (2) 施設改修計画に関する事。
- (3) 経営に関する事。
- (4) その他必要な事項に関する事。

(組織)

第3条 委員会は、第2期えひめこどもの城魅力向上戦略(仮称)作成業務(以下、「本件業務」という)において選定された委員9名以内をもって組織する。

- 2 委員会に会長1名及び副会長1名を置く。
- 3 会長は、委員の互選により定め、副会長は会長が指名する。
- 4 会長は委員会を代表し、会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、会長が事務局を通して招集し、議長となる。

- 2 会長は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、その意見を求めることができる。

(解散)

第5条 委員会は、それぞれその任務が達成されたときに解散する。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は本件業務の受託事業者において処理し、事務局を運営する。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、その都度、委員会で定める。

附則

この要綱は、令和5年5月26日から施行する。

●第2期えひめこどもの城魅力向上検討経過

時期	内容
2023年5月26日	第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会設置
2023年5月30日	愛媛大学社会共創学部 演習① 課題提起
2023年6月27日	愛媛大学社会共創学部 演習② 中間発表
2023年7月18日	愛媛大学社会共創学部 演習③ 最終発表
2023年7月1日～7月31日	えひめこどもの城利用者に対する調査
2023年8月25日	第2期えひめこどもの城魅力向上戦略骨子(案)作成
2023年8月30日	第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会開催【第1回】
2023年10月11日	第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会開催【第2回】
2023年11月～2024年2月	第2期えひめこどもの城魅力向上戦略 案検討



●第2期えひめこどもの城魅力向上検討委員会委員名簿

区分	氏名	所属・役職
学識経験者	友川 礼	松山東雲女子大学 人文科学部 心理子ども学科 准教授
利用者(一般)	堀田 真奈	NPO法人ワークライフ・コラボ 代表理事
利用者(三世代利用)	山口 徹	株式会社NANATO 取締役副社長
利用者 (若年層)	友成 佳奈	愛媛大学理学部 生物学科3回生 (ELS第27期生)
	家中 晴菜	愛媛大学法文学部 人文社会学科4回生 (ELS第25期生)
	矢野 嵐	愛媛大学社会共創学部 産業マネジメント学科4回生 (ELS第25期生)
施設管理	敷村 一元	えひめこどもの城 園長
行政	森本 克也	砥部町 商工観光課長
	青野 睦	愛媛県 男女参画・子育て支援課長

計9名

